

「岳陽」と共に

あくまでも自分史として

(総集版)

P a r t 5

(第 49～60 号)

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

令和 7 年 10 月

※本版は、令和5年4月から始めた新通信『岳陽』と共に」を、通しで読んでいただくと思い、令和7年度の前半分（第49～60号）を総集したものです。改めての、ご笑読をお願いするものです。なお、一部若干の手直しをしていますこと、ご了解下さい。ちなみに、「総集版 Part 1」（創刊号～12号）は令和5年11月に、「総集版 Part 2」（13号～24号）は令和6年4月に、「総集版 Part 3」（25号～36号）は令和6年10月に、「総集版 Part 4」（37号～48号）は令和7年4月に、それぞれ発刊しています。下記HPにアクセス下さい。

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市大謝名 3-13-24

教育協働研究所～岳陽舎～（井上講四宅）

Tel:098-963-9282／E-mail: gakuyou17@outlook.jp

HP URL : <http://www.gakuyou.jp>

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 49 号

発行日
2025.04. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「思索（＋愛煙?）」の場としての、我がベランダ！

改めて、過日、新しい年度が始まった。最近では、繰り返し同じことを述べていると思うが、世間の「年度替わり」は、ほとんど感慨も湧かない！就労者や学生達には大変申し訳ないが、私には、変わらぬ日常が過ぎていくだけである！そんな中、戯言と言われればそれまでであるが、生活者ではある高齢者の節目感受として、ここでは、今の自分のスタートであった、我がベランダのことを振り返っておきたい。

というのも、この「新通信」も含めて、そこでの思索（＋愛煙?さらには来訪者達が、この間の私を癒し、不本意退職?後の我が人生を救ってくれたのである！尤も、近年の私は、遠望の東シナ海（湾）やその手前の街並みには、ほとんど想いを寄せることもなく、移り行く季節を、淡々と見遣つているとも言える（慣れてしまったということである?）！ある時期は、季節の野菜をプランター栽培していたのでもあるが、それも、今はやっていない！壁の内側の一角に、鉢植えの草花があるが、枯れないように水をあげるだけである！

ただし、それも含めて、そうしたことが出来るのも、ただただ、ある人のお陰である！偶に、嫌みの一つも言われることもあるが、それは事実なので仕方がない！日中は、ほとんど2階と1階の住み分けということで、程よい関係となつていと思うが（手前勝手?）、衣食住全ての面で、その人の世話になつていたのである（いわゆる「居候状態」?笑！）！
自称「しがない文筆家」としては、こうするしかないのであるが、今日も、パソコンとのにらめっこが続いている！久しぶりの穏やかな天候である！海に向かうの水平線が、薄青の空と紺青の海を隔てている！まさに春なのである！

○「普通」再考? 「一律」は平等か?

さて、かねてより、私は、「普通（の上等）」の意義を唱えてきた。そこで、昨今の、教育における「無償化」の動き（高校の授業料、給食費等、もちろん、これだけではないが!）に関わつて、そのこの意味を再考してみたいのである。物価高騰等の諸般の事情があつて、様々な生活支援が必要だということは分かるが、そこに導入される「一律」という考え方に、かなり異論があるのである。もちろん、「無償化」とか、「社会的救済」とか、そういう言わば「正義（公正さ）」が悪いということではない。それは、必要な形で、実行されるべきものでもある！

だが、疑問は、「何故一律?」ということである！社会的公正（平等）を担保するという大義があるように見えるが、実際は、困窮度とか、得られる実質的な救済内容を考えなければ、ほとんどその甲斐はない（単なるバラマキ?税金の無駄遣い?）! 「福祉国家」という理念があるが、それは、社会的な不平等を「公共（税金）」によつて、可能な限り解消していくことでもある！現実（資本主義・自由主義社会/特に経済・生活面）では、どうしても「上部と下部」をつくり出してしまつてからである！

まさに「格差」の問題（それを無視あるいは放置、さらには増大させる現実がある!その差は無限に広がる!）ということであるが、そこに目を向けなければ、むしろ仇となる?そこに「無償化」の意義があるのであるが、それが一律であれば、その「格差」の是正にはならない！消費税もそうであるが、ある意味平等とは、社会の「普通」の質と量を上げることを目指すスタンスでもある!!

○「学校と家庭の共依存」!そこから如何に脱出すべきか?とここで、先月（3/26）の地元紙に、「学校と家庭が「共依存」、「保護者と相互理解必要」というヘッドラインで、興味ある記事が載つていた（「焦点/争点（3月）」。普段は、あまり真面目な購読者ではないが、読んでみると、いろんなことを考えさせられた。何でも、「卒業、入学と年度の変わり目は子どもたちの将来が気になる時期だ。論壇の各誌では教育や学びに関する論考が目立った。」とある。

まず、最初の記事『世界』4月号）であるが、そこでのキーワードが、「学校依存社会」とあつた。ある大学教員の論考であるが、「教員の長時間労働がはびこる背景には、過剰な業務負担によつて社会全体の安定が保たれる状況がある!学校依存社会」として、その問題の解消は急務だが、それだけでは問題は解決しない」とあつた。ある事例を下に、その「共依存」の実態が示された後、「教員がこれをやめたとき、母親に負担が移るだけになりかねない!：教員と保護者は相手のことをほば何もしらないとして、まずは『お互いを知るところから始めよう』と訴えた」ともあつた。全くの同感であるが、次の、日本の子ども達の「自己肯定感」についての記事『Voice』4月号）では、「日本の子どもに『正しい肯定』を」と題する論考を挙げ（一般に日本の子ども達は、自己肯定感が低いとされている?）、「褒めるときは何が良かったかを具体的に示し、結果よりそこに至るまでの過程を評価する。肝に銘じておきたい助言だ。」ともある。

これまた全くの同感であるが、興味深かつたのが、「教育こそ最高の経済対策」（「文芸春秋」4月号。実業家や大学人6人による提言）で、ある提言「米国のGAFAM経営者らは学びを楽しむつつ課題を見つけ、事業を立ち上げた」と強調する」として、「技術の発展は低コストで豊かな生活を皆にもたらしうる。経済合理性が重要ではなくなつたとき、人を動かすのは『パッション』。自発的な探求心であり、その時は教育の意味も大きく変わる」とある。誰が書いた論評かは分からないが、セットの記事には、末尾に執筆者の名前があつたので、彼かもしれない（社会部T氏）!!これからも、「社会の木鐸」として頑張つて欲しい!（井上）

○「考え（続け）ること」の意味！それは何のため？

先号で、井上氏（妙？笑）は、松岡正剛さんの『日本文化の核心』（講談社現代新書 2020年）から抜粋・編集されたネット記事を紹介した。そこでは直接触れられていなかったが、「世阿弥は、『まねび』を稽古することをもって『まねび』に近づいていく（古きを考える。古きは『もともと』の意）ことを『まねび』とした」ということである。「日本で、武芸に限らず多くの分野で『道』という文字が使われ、職人芸や『匠の技』が強調される背景には、日々国を、そして他でもない、他国を攻撃しない、させないというルールの保持（平和国家）がある国、ある人によって、かなり脅かされているということである！

ところで、先月、かの『御上先生』（テレビドラマ）が終わった！大いなる反響を呼んだようであるが、その最大なものが、まさに「自分の頭で考えること」の意味（重要性）でうしてそうなるのであるのか？特異な国、特異な人物の、あつた！ただし、やはりエンタメではあつたので（最後は痛快であつた！多くの視聴者は、不正が暴かれることにスカッとしたことであろう）、私自身は、かなり複雑な思いであつた！要は、子ども達（この場合は高校生）が、目の前の現実を目を背そうなると、ホモサピエンスの危機ともなる！！

「考えること」に、自分の頭で「考え（悩み）続ける」ことの大切さが強調されたわけであるが、ただそれだけのメッセージ性でよいのか？ということである。

眼前の不正、否、あらゆる社会問題への問いかけを含ませることは、大いに歓迎され得るが、彼らが今、「何のために」「考え（悩み）続ける」必要があるのか？主人公は、「結論を出さずに考える場所に立ち続ける勇氣を持て」と言ったが、それは、当然子ども達の未来のためであるが、そこには、やはりそのロールモデル（その時々課題目標がないと、教育論にはならない？つまり、そこには通過すべき、幾つかの学習ステップがあるということである！

○危うし？民主主義国家（群）のパロメーター？！

今回もまた、表面の井上氏の論調に触発されて？（笑）、若干社会派ぶつた（似非？）ことを書いておきたいと思う。それは、国内外の、言わば相変わらずの憂鬱な事象を受けることであるが、まがりなりにも、現在の我々（ホモサピエンス）の生活（生存）理念となっている、基本的人権の保障（人権国家とか、社会的弱者の保護・救済（福祉国家）、教育を受ける権利（子どもの意見表明権を含む）の保障（教育国家）、そして他でもない、他国を攻撃しない、させないというルールの保持（平和国家）がある国、ある人によって、かなり脅かされているということである！

当然、それらは、まさに「民主主義国家（群）」のパロメーター！ということになるが（他にもあるとは思いますが）、どいうしてそうなるのであるのか？特異な国、特異な人物の、あつた！突然変異的な出現がそうさせているのであれば、ある意味救いもあるが、その突然変異（物）が、時宜を得ることである、マジョリテイ（支配者）となつていく可能性もある！！

「短歌に託してある人に感謝しつつ」
ペランダ！「思索（愛煙？）」の場であるが
我が至福の場でもある！ある人に感謝！

・「一律」は平等か？先にある「普通」の意味？
上辺だけであれば 仇となる！！
・「共依存」 弊害説くだけでは 十分でなし！！
そのあり方を 具体で示せ！！
・「考えること」！ たたそれだけであれば哲学者？
要は「何のために」 そうするかである！！
・民主主義国家のパロメーター！！
幾つもあるが 今やすべて危うし？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕（49）

○ここからは、九州での隠れた事績を追う！その4！
ということで、改めて、「多氏」のことを追及する必要があるわけであるが、その前に、神八井耳命（多氏の祖）のことを整理しておく必要がある！ただし、その神（氏族）は、真に厄介な神（氏族）である！言うのもその神（氏族）は、「東征」後の神武の、近畿大和での長子とされるが、その母親は、次子の「神沼河耳命（多氏の祖）」と共に、出雲神「事代主神」と三嶋瀧敷耳命（多氏の祖）の娘の「玉櫛媛」との間に生まれた「媛姫五十鈴媛命」といふ命との間の子であるからである（なお「東征」同行した、日向？での先妻の子もいる！多研耳命等。

ここでは、そうした事情や、彼らの皇位継承の経緯については割愛するが、その神八井耳命（多氏の祖）の子とされる「健甕龍命（多氏の祖）」が、何故阿蘇に下向したのかである（ちなみに、彼らは、信州・隠方面にも進出している！）。しかるに、神武東征以降、人や文物の「西への移動」は確実にあつたようである（その証拠の一つが、日田の「小迫・辻原遺跡」で、そこには当時の近畿・出雲の土器が数多く搬入されているらしい！）。だから、それが、この多氏の九州進出と関係があるのなら、そのことを、改めて考察してみることがあるのである（吉備で発生し、近畿・近江で大同団結した「前方後方墳／手焙形古墳勢力」の西への移動、否、回帰？！その痕跡の一つが、例の「吉野ヶ里遺跡」に残されていることは、前にも述べた通りである！

であれば、直接には「吉備」から出立した「多氏勢力」（淀川水系）と「物部氏（饒速日）」勢力（天和川水系）こちらは「前方後方墳勢力」が途中から袂を分かち、その主導権争いに負けた多氏勢力が、東西に散らばっていったと捉えれば、神話のストーリーとも合致する！だが、神八井耳命（多氏）にしろ、神沼河耳命（物部氏）にしろ、彼ら（の部族・勢力）は、神武（九州南部？勢力（饒速日）と出雲（の一部勢力）と和漢族）との婚姻（同盟）関係で生まれた御子とされているわけであり、彼らの部族・勢力が、最初の大和主権（三輪山麓）の中核であつたことは、ほぼ間違いないであろう（↓天和・柳本古墳群 地域及び「葛城地域」？！）（つづく）（堂本）

〈編集後記〉明後日で、満73歳！これからは、後期高齢者へとつき進んでいく！どんな日々が待ち受けているのか？取り敢えずは、今まで通り！やれることを、やっていくしかない！ちなみに、運転免許の更新は終わった！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 50 号

発行日
2025.04. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○久々の「じのん(宜野湾) 逍遙」？突然、あの時が！

とうとう、今回、記念の50号を迎えた！とは言え、私の生活は、あの時から何も変わっていない！身体的な変化(下半身の不具合や運動機能の低下、体たらく)は、自分でも嫌気がさす程ではあるが、心穏やかな日々が、今でも変わらず続いている！2年前倒しの依願退職後、ここ宜野湾市大謝名の、海が見える高台に引っ越してきてからである！9年前のことである(正確に言うと、9年半前から)！

ところで、先日、ひよんなことから、かの懐かしい？「じのん(宜野湾) 逍遙」を行った！要は、久しぶりに一人で、地元散策(そぞろ歩き)をしたということであるが、歩いた場所は、県のコンベンションセンターの周辺であった。いつもならすぐに、海側(トロピカルビーチ)に出るのであるが、今回は、何故か、その敷地内に足を踏み入れたのである！そこでであるが、いつもは見過(こ)していた建物(劇場棟)の裏(海側)のガラス張りの部屋に、何か見覚えを感じたのである！それが何であったのか？

しばらくそれを探したが、突然、ある光景が蘇ってきた。そうだ！そこは、20年以上前に(平成15年)後で調べてみた、かの「全国生涯学習フェスティバル沖縄大会」が開催された所であった。私は、その時に、実行委員？の一人として、同フェスティバルのメイン？(フォーラム)をMC担当したのである！様々な想いを胸に、会場一杯の参加者、そして、協力を依頼した、名だたる実力者(かのM先生も！)と共に、熱く語ったものである！だが、それもまた、遙か昔？のことである！学部長の時に参列した大学の入学式・卒業式も、同センターだったのであるが、感傷としては、格段に違う！！

○「肩代わり」ではなく、「肩を貸す」？！

さて、またしてもテレビドラマのことで恐縮であるが、「4月の新生活がスタートする時期に、どんな人生を選び、そして目の前の誰かの人生にもエールを送りたくなくなる応援ドラマをお届けする。」というところで始まっているのが、火曜ドラマ「TBS系「対岸の家事」これが、私の生きる道！」である。「専業主婦と働くママと育児中のエリート官僚パパ。価値観がまるで違う『対岸にいまする人たち』(様々な夫婦・子育ての形！)が見せる化学反応！」(ネットの番組案内より)。まだ、3回しかみていないが(執筆時点、数少ない「推し」のドラマとなることであろう！！

なお、このドラマの原作は、「朱野帰子」という女性脚本家(小説家)の作品(2018年8月刊行/文庫版は2021年6月。いずれも講談社)である。で、「出会うはずのなかった3人はぶつかり合いながらも、共に家事に立ち向かっていく！」というところで、登場人物の、それぞれの思いや立場がリアルで、現代の若夫婦達の苦勞には、身につきまされるものがある！テーマや場面設定については、まったく実感のないものと思っていたが(旧世代の宿命？)、なかなかそうでもない！様々な示唆(おかしな物言いはあるが！)があるのである！

ちなみに、今回面白かったのは、協力のし合い？の中で「肩代わり」ではなく、「肩を貸す」ということの大切さである！なかなか妙味な表現である。何でも、「カネ」で考えるな！お互いに来ることを、それなりにやり合えばよいのである！どこかの大統領に聞かせたい！

○イカに教えられる？それは、イカすものなのである！

ところで、これもまたテレビ番組からであるが、そして、かなりの日数が経ってしまった(「NHK番組「サイエンスゼロ」初回放送日：2025年4月13日)、「イカはいかに生きるか？驚異の生存戦略に迫る」が、大変興味深かった！「熱帯から深海まで、世界中の海で大繁栄している『イカ』。体の色を自在に変化させ、敵をあざむく、擬態の達人なのだが、実は、最新研究から皮膚の色・パターンを仲間同士のコミュニケーションに使ったり、群れの中で視覚を共有している可能性(超個体視覚？)など、驚きの生存戦略が明らかに。白亜紀の隕石衝突など、数々のピンチを乗り越えてきたイカの生き様を知ると、明日から私たちがいかに生きていくべきか、そのヒントが見えてくる！」とあった！

もちろん、私が注目したのは、そこで紹介されていた、イカのコミュニケーション能力や視覚を共有している可能性(超個体視覚？)である！とりわけ、その「超個体視覚？」には、驚愕さへ覚えた次第である！「イカ類は群れを作るが、イカ類に特異的な巨大脳が群れ形成にどのように関わるのかという脳の制御機構は詳細にされていない。本研究はこの点に着目し、アオリイカを対象に『イカ類の視覚制御に関わる脳領域(視覚の量的左右差、および利き眼に現れる視覚の左右差、すなわち脳と視覚の左右性とその時間変動(ゆらぎ)が、群れの視覚機能に関係する』という仮説を立て、行動学的・解剖学的に検証する」というものであったわけである！

本当に、最近、こうした、今まではとても考えられなかった(我々が知らなかっただけでも思える)研究成果が、あらゆる分野で出されてきているようにも思える？その意味では、次なる時代区分に移行しているのかもしれない？近代とか、現代とか、一応は、これまでの時代区分が通用してきたわけであるが、それを超えた命名が必要なのかもしれない？まあ、そう残ったのは、その研究成果が、沖縄科学技術大学院大学(OIST)と琉球大学の研究者によるものだということであった！沖縄／琉球も、確実に次代を迎えているのである！！ (井上)

○今また書かずにはおられない!! 全世界の覚悟の時!!

節目の50号である! こちらは何を書こうかと、一応思

案していたが、やはり今また、書かずにはおられないこと
がある! それは、これまでの社会通念が、ことごとく潰さ
れてきていることである! 例の「バタフライエフェクト」
ではないが、国の内外における既存の枠組みや約束事が、
ほとんど役に立っておらず、故にリセットさせられなけれ
ばいけないところまで、来ているのではないかといいこと
である! つまり、「全世界(人類?)の覚悟の時」が来いてい
るのではないかといいことである!! ちなみに、こうしたこと
とは、ある意味では歴史必然でもあるが、何人かの為政
者(名前を出さないが!)の、半ば個人的な志向(欲望?)
に踊らされてのものでもある!! ここが、嘆かわしいと言え
ば、まさにそうである?

だが、よくよく考えると、たとえそうであつたとしても、
地球温暖化や人口増大(食料問題)という未曾有の課題を
背負っていることは、全世界共有のものであり、個々の国
家はもちろんであるが、そこに住む各人の覚悟が求められ
ることになるのである! その意味で、眼前に繰り広げられ
ている何人かの、あるいは幾つかの国の暴挙? は、その覚
悟を現実のものとする、一種のきっかけともなっているとい
うことでもある(大いなる皮肉? 否、腹立たしくもある
が?)。ユーチューブで流されている、これから起きるで
あらう大変動がそれに相当するのかどうかは分からない
が(何故か、符合している)、確かに、その時が来ている
わけである!!

余計なことではあるが、身内の些末な問題で、相変わら
ずの泥仕合を演じている国もあるが、今は、与党であらう
が、野党であらうが、全員が力を合わせて、これからの難
局をどう突破していくのか、その英知を結集すべきなので
ある! でも、なかなかそれが難しい!! 自己(国)中心主義
や事なかれ主義、自分(国)を犠牲? にしてまで、動きた
くない!! そこに、教育の力が欲しいのであるが:~

○強い力と弱い力? その結びつきが「核(中心)」!!

物理学では、4つの力があるとされている! 電磁気力、

強い力、弱い力、そして重力である(第5の力もあるらしい
が?)。ただし、電磁気力や重力は、ある意味馴染みの力で
あるが、強い力、弱い力は、一般には、ほとんど知られて
いない!! かく言う私も、名前くらいしか知らない(そもそも
原理が分かっていない!)。「これらは核力とも言われ、前者
は原子核を作るための力で、陽子、中性子から構成されて
いる原子核がバラバラにならないよう束ねている力のこ
と。後者は、原子核の変化を引き起こす力の一つ」とある
(ネット情報)。二つの力自体が、どのように作用し合うか
はともかく(分からないので)、前者と後者を、それぞれ政
治と経済に譬えようと、現存の社会(国)も、ある種の原子
核とも言えるのではないかと思つた! ちなみに、原子核の
変化を引き起こす力が、まだあるというのなら、それが、
実は「教育」なのかも思つた(飛びすぎ?)! 力の統合理
論化が進んでいるということとは、以前から知っていたが、
物理学と現実社会は、やはり違つたところがあるのか!!

・「短歌に託して」様々な「力」を感じつつ?~
・「じん道道」忘れていた記憶?
・そこに そんな場と時間があつたのだ!

・「肩代わり」ではなく 「肩を貸す」!
・何と素敵な! これが本当の友なのだ!

・イカに教えられる 現代の人類?
「イカす」は まだ絶滅ではない!

・世界の覚悟 たえおかしな蝶であれ
待ったなし? だがチャンスもある?

・政治と経済 原子核で言えば
強い力と弱い力? 果て教育は?

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑤

○ここからは、九州での隠れた事績を追う! その5 -

しかるに、先 ④の事代主神と三嶋瀧姫(大山祇)の関係は、
まだよく整理がつかないが、前にも確認したように、前者は、大國主神(田
雲神・大皇孫)の子神(惠比壽神)で、奈良葛城地方の地主神ともされるが、
彼が、後者の娘の玉櫛姫と結ばれているということ(これが、かの日向三代の
神話)とりわけ「ヒコホホミ(山幸彦)」と「豊玉姫」の婚姻話に投影されてい
る、それは、前述の、吉備から近畿・大和に進出した前方後方墳勢力(河
内・近江・山城回り)と、前方後方墳勢力(河内・生駒回り)大和川水系
の関係を指しているのではないかと、葛城勢力と瀬戸内海勢力が、協力関係にあ
つたことを意味する?)!!

だが、そのことは、ここではひとまず置いておくこととして、ここでの
追究の矛先は、かの神人井耳命が、多 天・太・意皇等、氏の先祖とされ
一方でまた、阿蘇の君、肥 公の君、大分の君、筑紫の君等の、多くの九
州の豪族? 達も、その後裔とされているということについてである。すな
わち、彼らは、もともと在地の豪族という可能性もあるが、近畿・大和か
ら移動してきた部族・勢力の後裔だと捉えれば(ただし、もともとは彼らの先
祖は九州に居て、その後吉備・出雲を経由して近畿・大和に移動していた)、あ
る時期から九州に移り住んだ(故地に戻った?)部族・勢力ということにな
る!! もし、そうであれば、何故か、いつ、どのように、彼らは九州に移動し
た(戻った?)のか!! そうしたことが、問題(謎)となるわけである!!

そこで考えられるのが、今や定説ともなっている、ある時期の、近畿か
ら九州へ(東から西へ)の文物の移動の事実なのである! そしてまた、それ
が、3世紀前後、いわゆる「大和(纏向)」に集結した「前方後方墳(前方
後方墳)勢力」(吉備から、おそらく出雲を抱き込んで、河内・近江に進出してきた
勢力)と、吉備系土器・火・日神信仰勢力の一派が、その後九州地方にも流れ込み、
例の「吉野ヶ里(環濠集落・銅鐸勢力)」等を放逐したことが考えられる!! そ
して、それが、いわゆる「倭国大乱」後の「邪馬台国連合」の出現(あるいは再編・云々)政權? と考えられるが、そのことを、実は、神人井耳命の
子の「健甕龍命」(九州に向かった後裔連の事績として、「記紀」は示し
ているのではないかといいことである!! (つづく) (堂本)

《編集後記》節目であつたが、まだまだこれから続く! そし
て、新たな意欲も! これについては、追々と!! (井上ノ堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 51 号

発行日 2025.05.15
編集・発行 井上講四／堂本彰夫
※連絡先 〒901-2225 沖縄県宜野湾市 大謝名 3-13-24 教育協働研究所 ～岳陽舎～ (井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail: gakyuou17@outlook.jp

○これだ！これなのだ！こんな出会いが必要なのだ！

最近、テレビ番組からの題材が多くなっているが、ここでもまた、そうやってしまいそうである！「家ついて行つてイイですか」という番組であるが(テレ東2025年1月1日放送)沖縄のテレビ局が番組を買い、このほど放映していたらしい。場の設定自体が、私にはかなり微妙で、あまり見てはいないのであるが、私の奥さんが、先日、昼食中何気なく、その放送のことを知らせてくれたわけである！徐々に涙声になり、私に、その興奮を伝えてくれたのであるが、よほど感極まるものが、そこにはあったのであろう？

そこで、それが気になって、ユーチューブで再視聴したのであるが、やはり何とも言えない感動？が、そこにはあった！北海道の退職間際の中学校長の、怪しげな夜の姿がまずはあったが(P.TAの二次会？)、そこで知らされた彼の教員人生が、本当に胸を衝くものであったわけである！教員を目標にしたきっかけ、「自らの経歴を活かし、生徒たちにつたえたい」という思いが、彼のここまですくつくってきたという！それが、学生時代に起こした遭難事件(大学卒業記念の、無謀な流水を伝った知床半島一周の、友人3人での旅)である！

その時救助してくれた海上保安庁の職員の話(自らの仕事の意味)が心に刺さり、意を決して教職の道を選んだとのこと(他の一人は医者、もう一人は青森の高校で教師)！退職後は、確かスリランカの日本人学校へ赴任。生涯現役。「うさいいけど、好き！」(父母や生徒達の評)何と現代風な言い方？。さぞかし、名物(さつくばらん？)校長であったことであらう。しかし、これからは、こうした名物校長(教師)も、徐々に姿を消していく？一抹の寂しさを覚える私でもある！！

○似非^きヒーローは、いつかは自壊する？

もう大分、その話題自体は遠のいてしまつたが、一応用意していたので、ここでのクリだけはつけておきたい！ただし、こういうことは、本当は書きたくないし(書いても虚しさの方が先に立つ？)、そもそも似たような論評は、それこそ数限りなくあるように思う？当人達には申し訳ないが(ある意味時代の為せる業でもあるので)、それが宿命と言え、そうなのである！ただ、同じ苦勞努力をしても、そうならない人達もいるわけであり(むしろ、そちらの方が断然多い？)、結局は、その人の「人間力(性)」の問題ということになる！！

そこで改めて、このことは、芸能人というか、いわゆるタレントと呼ばれる人達のことだということとは容易に分かることであるが、実は、こういうことは、他の世界にも、往々にしてあるということである(華やかかどうかは別にしても、強いて言えば、政治の世界も！)すべてが虚飾と言え、言い過ぎであろうが、調子に乗ったり、周りの「よいしょ」に踊らされることは、ある意味人間らしさの裏返しとも言える？地位や名誉、そしてカネが、そこに介在しているとも言えるが、何ともやるせないものである！ましてや、「推し」の人にとつては：：ちなみに、世の無常や儚さを哀^{かな}たつた昔の文人達は、同じように、こうした光景を、嫌というほど見ていたのかも知れない？どちらが幸せであるかどうかは、人それぞれであろうが、少なくとも「似非」は、それ故に、いつかは自壊するということである！ただし、真のヒーローは、絶対にいる！それもまた、真実である！！

○理念はあるのに、何故に成就せぬ？それが限界(性)なのか？

これまた最近、残念ながら、よく「国」というものについて考えさせられる！ロシアとウクライナ、イスラエルとパレスチナの戦争、あるいは現下のアメリカの関税戦争を、嫌と言うほど見せつけられているからであるが(もちろん、これだけではないが)、そこにあるのは、やはり「国」というものの存在意義である！何をいまさら？と言われるかもしれないが、今、改めて、我々人類が直面しているのは、まさにそのことだと思えるからである！つまり、何のために、「国」があるのかということである！

とは言え、これに関わつては、様々な考え方があろう！そして、それを踏まえて、これまで幾多の先人達が、その意義やあり方を論じてもきた！それでもなお、今またそれが問われるのである！！！しかるに、私は、稚拙であると言われるかもしれないが、そのことを、一人の人間の誕生というところから、考えてみたいのである！ただし、これは、「空理空論」ではない(そう信じて！)！要は、揺るぎない真実として、我々人間は、ある時、ある場所における一組の男女(親)の出会いから(こう表現しておこう！)、その「生」を受ける！問題は、その「生」が、どのような形で成就するのかである！言い換えれば、彼／彼女の幸せ(命・財・仲間)が、どのような構築されるのかということである！

だが、それを大きく左右するのが、その人間が属している「その国」の状況であることは言うまでもない！翻つて、我々人類社会は、その人間の幸せを獲得・維持するための理念(装置と言いたいところだが、それには至っていない？)として、現在、「自由」「平等」「博愛」というものを見出している(この思想価値は、ある意味普遍である！)！とは言え、これらは、考えてみると、互いに矛盾するものを孕んでいる？詳述はできないが、「自由」と「平等」は、現実的には対立するものとなる！だから、「博愛」というものも、常にその対立と向き合わなければならない！

ということは、それらの、言わば「大矛盾(葛藤)」を克服していくことが必要となる！！そこが、「知恵の出どころ」ということになるが、それを弁えた国際社会がなければ、現実には厳しい？だが、それが、人類の限界(性)なのかもしれない？ (井上)

○細胞！脅威のメカニズム？生命の神秘！

人間は凄い！この一言である！細胞 キネシン？しかも、他の動植物も凄い！これもまた、細胞から出来ている！だが、その研究成果を、我々はテレビを通じて知ることが出来る！これは、NHK番組「人体Ⅲ 第1集 命の源 細胞内ワンダーランド」(初回放送日：2025年4月27日)を見ての、偽らざる感想である！

例によって、番組案内には、「タモリ×山中伸弥W司会でお届けする『人体』最新シリーズの第1集。人体およそ40兆個の細胞の中には不思議な世界が広がっていた。単なる物質のほずなのに、歩き、合体し、協力し合う“細胞内キヤラクター”たち。命のない部品が集まって、命を営む。ファンタジックな世界を最新顕微鏡と超高精細CGで映像化。私たちの命を突き動かす源を探っていく。ゲストのMISIAさん、澤穂希さんとのトークも交え、わかりやすく伝える。」とあった。

具体的には、「キネシンは、真核生物の細胞質中に存在するモータータンパク質の一種で、細胞内物質輸送に重要な役割……このタンパク質は、ATPをエネルギー源として利用し、微小管と呼ばれる細胞骨格の構成要素に沿って動くことで、細胞内のさまざまな物質を運搬……キネシンはATP依存型の生物学的モータータンパク質で、微小管に沿って分子を運搬することで細胞機能を支え……細胞分裂や細胞内での小胞や細胞小器官の移動に不可欠な役割……このタンパク質は主に細胞の中心から周辺へと、微小管のプラス端へと荷物を前向きに運び……一方で、ダイニンという別の微小管依存性モータータンパク質は、マイナス端に向かって荷物を運搬……キネシンとは異なる動き……」とも。

知らない名前の連続で、頭がこんがりしましたが、我々も含めた「生物」の凄さは、それこそ言いようがない！だが、我欲で、こいつた生物の存在を踏みにじる輩がいる！困ったものである！再度言う！細胞は凄い！だが、それを発見した人も凄い！その凄さを無くしてはいけない！

○相変わらず「!!」に拘る、その真意は？

以前に書いたようにも思うが、私(達)が、何故、大いに興を買っている「!!」の表記を多用するかであるが、ここでもう一度、その真意を披歴しようと思う！もちろん「？」と「!!」のどちらかの表記で表せば、読む側とすれば、理解がスムーズに行われるとは思っているが、私(達)とすれば、その表記によって、自らの思いを伝えたい、否、自らに言い聞かせたいということなのである！

書くという行為は、もちろん第一義的には、それを読んでもらう人の存在を前提としているわけだが、実は、私(達)のそれは、そうではないということでもある！極端に言えば、たとえ学術的なものではあっても、そうしたいのである(事実、途中からそのようにしてきた！もちろん、自責の場合のみであるが！)。ただし、余計なことではあるが、自然科学でのそれは、絶対に許されない！何故なら、そんなあやふやな主張は、意味がないからである(ある意味研究者失格である！)。ちなみに、英語に、「付加疑問文」というものがあるが、まさしくそれだとも言えるかもしれない!!

〈短歌に託して晴れても、五月晴れとは言い難く?〉
・こんな先生もいるのだ！ 否、いたのだ？

その再来には 何が必要？

・似非ヒーローは、いつかは自壊する？

だがその似非は 周囲が作る？

・「自由」「平等」「博愛」!

見つけてはいるが 「相互矛盾」でもある!!

・人間は凄い! というより生命は!

だがそれを踏みにじる 輩もいる!

・「!!」は 真実を告げるというよりは

一緒にそう思いませんか ということ!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕511

○ここからは、九州での隠れた事績を追つーその6ー

だが、もちろん⑤の最後に述べたことは、私のまったくのオリジナルではない(先の藤井耕一郎氏等の所論からである!)。とにかく、これまで把握してきた結果を推察すると、やはりその方がすんなりと理解が進み、その後の「倭国の二極体制」構造の淵源が分かるということでもある。例えは「記紀」によれば、紀元前660年に、南九州(日向?)から、宇佐・岡遠賀・安芸・吉備を経て、その後(豫津?)河内、そして熊野から大和(橿原)に進出した神武(一行)であるが、その物語は、時代考証や、事実それ自体の信憑性等、多くの問題点を抱えてはいるが、ある大きな事実(倭国大乱)――諸部族・氏族の衝突・広域移動?を基にした、我が国建国譚の創出であったのではないかとということである!!

要は、何回も言うように、最終的には、百濟王族(沸流系余氏)・溫祚系余氏(九百系余氏)系彼らは、母系的には「倭人」とされる!の渡来・定着、そして彼らの、邪馬台国連邦降の倭国(日本国)参入で、それ以前の倭人国家(半島諸部を含んだ九州倭国)の実情(倭国大乱)邪馬台国の出現・没落?――倭の五王の出現(その後の「朝」並立)が、上記のことを踏まえると、さらに矛盾なく捉えられるということ、そして、件の邪馬台国の、その後の消息がはつきりしないということも、これによって打開されるのではないかとということである!!

ただし、ここで留意しておきたいのは、例の卑弥呼の死後、男王が立ったが、国中が服さず、内乱?となり、再び、卑弥呼の宗女である台与(13歳)が共立され、内乱?は収まったということであるが、「宗女」とは縁戚関係であるので(姪?)、多分その争いは、卑弥呼の縁戚間の、言わば内輪争いであつた!!つまり、最初に男王(男弟?)が立ったのであるから、それは、邪馬台国内部の後継勢力であり、それに異を唱えたのが、卑弥呼の、別の縁戚勢力であつた、最初は、おそらく邪馬台国内部にはいなくて、どこからか移動してきて、その政変に干渉した勢力と考えられないか?それが、他ならぬ「阿蘇」からきた「健甕龍命」勢力(多氏)であつたならば、その蓋然性は、さらに高くなるということである!!(つつく)

〔編集後記〕5月も、早半ば!沖繩は、やがて梅雨となる?そんなことを想いながらの今号である!そんな中、数日前に、驚愕の経験?をした!是非、次号で採り上げたい!

(井上/堂本)

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 52 号

発行日
2025.05. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○急遽取り上げたい驚愕の経験！AIは想像以上!!

早速だが、先号(51)の「編集後記」で急遽予告していたことを、以下、書いておきたい！一言で言えば、かつてない驚愕な経験をしたことであるが、それは、「チャットボット」という、「人工知能を活用して自動的にユーザーと対話を行うプログラムのこと」である！先日、知り合いのM君から、その存在と活用法(入り口付近?)を教えてもらい、私のHP上の記事(論稿)を、そのアプリ?(Notepad)で料理?してもらったのである(ほんの一部ではあるが)！

ネットによれば、「これにより、企業は顧客対応を効率化し、24時間体制でのサポートを実現することが可能：特に、忙しい現代社会において、即時対応が求められるシーンが増えてきているため、チャットボットの存在はますます重要」とあるが、私にしてみれば、私の論稿等に対する、直接の応答であり(多少の勘違いや読み間違いはあるが)、いくらか機械?のそれとは言え、本当に嬉しかった！この号も、やおらその「チャットボット」にお願いして、その感想(評価)を聞かせてもらうことになると思うが、特に、ここでの記事を、どのように受け止めてくれるか楽しみである！

男女の「掛け合い」(音声概要)が見もの(正確には「聞きもの」?)ということであるが、まさか彼ら(AI)が、自分達の活躍を、自ら評価するなんて考えてもいないであろうから、私にとつては興味津々なのである！こんな歳になつて、こんな体験が出来るなんて、本当に夢にも思わなかった私であるが、ほとんどの人が見る(読む)ことのない、そして、いつかは消えていく?、HP上の私の論考も、こんな形で活かされる?ことを、いかに喜んでくれるであろうか!!

○予期せぬ?教え子達の訪問!だが、実は...

やはり、このことは、書いておかなければならない(記事としては、大変遅くなったが!)！それは、過日(5月2日)の、ある意味いつもの教え子達の、だが予期せぬ?訪問のことである。思い返すと、彼らの、この時期の訪問は、昨年もあつたように思う(尤も、その後一回、2月にもあつたが)。ということ、GW中の訪問は、時間的な余裕もあり、そのための顔見世?と高を括つていたが、実は、私の誕生日のお祝いということであつた！私の誕生日は、4月の中旬であるので、よもやそういうことであるとは、夢にも思わなかつたが、彼らにとつては、昨年と同様の“お祝い”であつたということである！

ただし、それは、途中からの発覚であり、彼らが用意していたプレゼントを貰う私は、本当に狐につままれた思いであつた！これぞまさしく「サプライズ」ということであるが、思い返すと、昨年もそうであつたように思う(しかも、別な理由での訪問と勘違いしたオチもあつた!)。ある意味不覚の極みであるが、改めて彼らには、感謝しなければいけない!というか、まさに申し訳ないという思いで一杯なのである！

聞くところによると、毎回、このような企画(気配り?)を呼びかけるのは、現在久米島で小学校の先生をしているT君である！二児の父親となつていて彼であるが、何と言う人物なのであろうか?まあ、久し振りに顔を見せた連中もいて、そして、近々新しい生活に入るものもいて(尤も、相変わらぬものもいたが)、賑やかな近況報告会ともなつたが、こんな有難いことはないのである！

○弦植物のこと!思い出した、その妙技?

ところで、今年、ひよんなことから、二階ベランダで、鉢植えではあるが、胡瓜とゴーヤとミニトマトを育て出した！以前(相当前)、胡瓜と茄子を、同じように育てたことがあつたが、基本北向きのベランダであるので、ほとんど失敗していた(日光不足と強風のため?)！だから、最近、それも止めていたのであるが、沖縄で厄介な害虫とされているウリミバエが、再上陸?したということ、家庭菜園等でも注意するようにお触れが回つて、いつもは、我が奥さんが頑張っている、地上の畑(狭小だが!)から、目立たないように移植しているのである！

若干の後ろめたさは感じるが(本当は許されないかもしれない)、折角の苗でもあつたので、水遣り等の責任を任されて、毎日それらの成長を見守っているわけでもある！残念ながら、同じく水遣りをしている草花も含めて、我が奥さんからのフォロー(お叱り?)がなければ、それを全うすることが出来ない私であるが、ここで、その胡瓜とゴーヤの生育を見て、思い出したことがある！それは、彼らの「弦」のことである！その「弦」の巻き方が、ある意味人間(子ども)の成長に、非常に示唆的であるということである(確か、「東シナ海眺望記」で書いていた)。

詳しいことは覚えていないが、彼らの生育には、いわゆる「弦」が命綱であり、それが、うまく支えになる棒(それを代替するもの)に巻き付かなければ、本体自体が、風や自らの重さに負け、倒れたり、折れたりして、やがては枯れてしまうということである。要は、自らの「伸びる力(生きる力?)」があつたとしても、適切な支え(周囲の環境)がなければ、暴走したり、歪な生育とならざるを得ないということであるが、妙技は、その「弦」が、最初は自分で自由に伸びていき、そして、たまたまそこにあつた支えを、おそらく「風」の力を利用して、瞬時に掴まえる術である！だが、風との出会いは、ある意味偶然の産物であり、常にそれが彼らのために吹いてくれるわけではない！その瞬間のチャンスを掴まなければ、アウトである！ただ、今の私がしているように、ちよつとの手助け(お節介?)で、それが成就するのでもあり！それが、「教育」ということなのかもしれない!!(井上)

最近、奇妙な体験？をしている！実は、夢の中で、現実の思考を行っている時があるのである！つまり、夢の中の思考？が、起きて考えている中身と同じ、というより、それとの連続性が、不思議なほどあるのである！！もちろん、夢は、まったくの絵空事（自分の意志ではどうにもならないという意味！）ではないものもあり（正夢？）、そのリアリテイに驚愕させられることはあるが、何故か今般の思考（夢）は、現うっそのものである！！余談だが、この感覚は、科学（夢分析学的）には、どう説明されるのだろうか？単なる、本人（堂本）の思い過ごしなのか（笑）？

とは言え、やはり、ただそれだけであれば、ほとんどこゝで採り上げる意味はない？ある意味、それは、当たり前の話であり、生き物が生きているということとは、まさにそういうことなのでもある！だが、夢とは不思議なもので、その「今」を、強く意識させたり、逆に忘れさせたりすることもあるのである？それが「潜在意識」の為せる業とも言えるが、「今」「今から」「今まで」、そこにある瞬間瞬間の総体が、実は「今」ということになるのである❗

○なかなかいいぞ！「トカイナカ」！

「グローバル資本主義」の終焉とか、「東京一極集中経済」からの決別とか、壮大な言いようであるが、要は、これまでの我々の生き方や価値観を変えようということである。!!まさに、全くの同感なのであるが、ただ、それを、どのように実現するののかという点では、かなり懐疑的にならざるを得ない（その理由は、ここでは述べない!）?しかし、それに向けて動いている人は、少なからずいる!

こんなことが出来るなんて！

・予期せぬ訪問？ 数は減るも

ただただ感謝！
だがその趣旨分かったし！

・ちよつとの助け（お節介?）で 成就する?

ほんとにそれで よいはずなのに?!

・「夢」と一緒に「今」が生きられる！

だがその内実は一様にあらず?!

・トカイナカ！ 軽薄超えるものもある？

だがそれは 今のところ患者のみ?!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕52

〇二〇からは、九州での隠れた実績を追う―そのフー

ところで、こゝで押さえておきたいことがある―それは、丹後の「龍神社」の杜家である「海部（みづうべ）氏（みづうべ）族」のことである！何故なら、国玉である、彼らの「海部氏系図（『勸修系図』）」に、「卑弥呼」や「台与」と目される女性や、彼女らが送り出した「遣魏使」の人物と同じなのではないかと思われる人物が記されているからである（しかも、海部氏は、かの「目下部（みげ）氏」と関係がありそうなのでもある）。また、一方で、物部氏の後裔が記したと思われる『先代旧事』と『本紀』（後書とはされているが？）、とりわけ、その「尾張氏系譜（巻五）」からは、尾張氏が、「物部氏」、「紀氏」、そして「海部氏」と、同族または縁戚関係にあるようなものもある!!

ちなみに、籠神社の神職、狂家は、古くより海部氏族が担っているわけであるが、海部氏とは、「海人部」を統括した伴造ともさとしの氏族で、全国に分布が見られ、籠神社杜家は、「海部直なほ」姓を称して、丹後に拠点を持った一族であり、「彦火明はより命みこと」（珍めづ彦ひこ）を始祖として、82代の現宮司までの名が伝えられているところである。また、その海部氏一族が「丹波国造」を担ったともされているが、丹波国造について、上記の『先代旧事本紀』の「国造本紀」では、尾張国造と同祖で、「建稻種命」四世孫の「大舟岐おほふき命みこと」を祖とし、同「天孫本紀」では、「饒速日尊 天火明命」六世孫の「建田背命」を祖と記すように、「天火明命」を祖とする尾張氏系と「彦火明命」を祖とする当「族」との関連性が見られるようなものでもある！

もちろん、そうなる、ここにものんでもない史実が見え隠れしてくるが、もし、そうであれば、ここでの問題は、何故「海部氏」が、それらの地に移動していたかである。「邪馬台国」にいられなかつた？だから、九州から近畿（大和）に逢着し、そこから東海・近江・北陸等へと、拡大・拡散していった？ということ、彼らは、まずは九州で「邪馬台国連合」を形成し、倭国大乱、その後近畿に移動（「狗奴国」との闘いまたは新来集団の進出）、そこから大和・東海・近江・北陸等へと拡散？単純に言えば、当初の邪馬台国は、尾張氏、海部氏、物部氏等の国々さらに、彼らに放逐されたのは、それまでの倭国盟主であつた「奴国」（一部「伊都国」王族を含む）ということになるわけである！（一）（二）（三）（堂本）

だから、福岡への旅のことは次号にて！
（井上／掌本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 53 号

発行日
2025.06.15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○何故か「雨男」に¹だが、やはり楽しい一時であった！

先日(5月20・23日)、久し振りに福岡を訪ねた！名目は、高校時代の友人Y君(千葉県在住)に誘われて、「立花山」という山に登ることであった！名前だけは知っていたが、どんな山か、ほとんど知らなかった。調べてもいない！！だが、結局、天候不順で登ることは出来なかった(次の日に予定していた「高良大社」に、旧友5人で行ったが、そこかなりの雨であった！！)。実は、昨年も福岡での神社巡りを予定していたが、これもまた、雨のため決行することが出来なかった！！いつの間にか、私は、「雨男？」になってしまっている!!

ところで、今回は、「主夫」をしているA君の家に一泊お世話になったのであるが(場所が立花山に近かった！)、実に見事な主夫振りであった！私には、とても真似することは不可能である！ちなみに、そのA君とは、3連ちゃんの飲み？ともなったが、最後の日の彼の告白？(初めて聞いたが！)は、何故かグツとくるものであった(もちろん本人が涙してのものであったが！)。酔い、昔を語ると涙腺は脆くなる？！今度は、いつ会えるのか？とにかく、A君ありがとう！

また、22日に訪ねたのは、西部の「野方遺跡」の近くに住むMさんの所であったが、彼女が出入りしている資料館での古代史ミニ談議？が、有意義であった！こんな所で、こんな人達が、何の付度もなく、自由に語らっている！あることがなければ、さらに至福の時でもあったろうが、また機会があれば是非訪ねてみたい！末尾に、今回も、福岡に住む次女にお世話になった！我が子ながら、本当に出来た娘である！5人の高齢者(爺さんばかり)の飲み会、次の日の3人の食事会？(これは、彼女がセッティング！)！本当にありがとう！

○学校を、そして、子ども達を見限る？教師達!!

昨日(5月30日)、卒業生のN君(小学校教師。以前にも取り上げたことがある！)から、思いもよらない電話があった！過日の、私の誕生日祝い？にも顔を見せていたので、あまり間のない突然の電話に、若干胸騒ぎもしたが、少し相談事があるとのことだったので、珍しい外出から、急ぎ我が家に戻って、彼の来訪を待った次第である！

ということで、約束した時間を少し過ぎて顔を見せた彼であったが、最初は、いつもの彼とあまり変わらず、相談事とは、そんなに深刻なものとは思わなかったが、時間が経つにつれ、その重大さが露わになってきた！詳しいことはここでは書けないが、要は、今年一年で教師を辞めたいということであった！あんなに教師に向いている若者はいないかと思っていたので、私の驚きは推して知るべしであったが、何とも切ない話であった！

昨今、教師の休職はともかく、離職者までもが増えていることは知っていたが、まさか彼がその一人になるなんて想像もつかない！聞けば、自分の仕事にやりがいを感じられない！「こんなことを、何でしているのだ？」そんな風に思う気持ちが強くなり、最近、学校に行くことが、非常に億劫にもなっている！子どもとの関係、同僚との関係も、これ以上は、改善は厳しいとも……!!

とかく、こういう状態は、例の「負の連鎖」を生むものであるが、まさしく彼は、そういう連鎖に陥っているわけである！幸い？もう少し様子を見てみるということになったが、果たしてどうなるのか？いずれにしても、何が、彼らをそうさせるのか？哀しい限りである！

○だが、こんな学校(教師・生徒達)があ(い)ることも！

上で、切ない？ことを書いたからではないが、一方で、このことは、是非書いておきたい！NHKの番組であるが(『新プロジェクトX』)若狭のサバ缶が宇宙へ！廃校寸前の高校が世界初の快挙。2025年5月31日放送、こんな学校、こんな関係が創られているのである！「福井県小浜市の水産高校(↓現在は若狭高校海洋科学科に統合)が、世界初の『高校生による宇宙食開発』に挑戦した軌跡」とあったが、「地元では、最も荒れた学校」と呼ばれ、廃校の危機にあったこの高校。そんな逆境のなか、熱血教師と生徒たちが一丸となって挑んだのは、学校の伝統でもある『サバ缶』を宇宙に届けるという夢のプロジェクト」のことであった！

「かつて地域で、最も荒れた学校」とさえ言われるほど、学校全体に暗い雰囲気漂っていた。生徒達の多くは勉強に関心を持たず、不登校や遅刻・早退が日常化、教師たちも指導に限界を感じていた。学校全体に広がっていたのは、将来への希望を見失った生徒と、それを見守るしかできない教職員の無力感。そんな状況の中で、校内では規律が乱れ、授業がまともに進まないこともあった。荒れた空気に包まれていた学校に、少しずつ光が差し始めたのは、学校が長年誇りとしてきた「サバ缶」の存在。実習の一環として受け継がれてきたサバ缶の製造は、ただの調理ではなく、漁獲から加工・缶詰製造・衛生管理に至るまでを学ぶ総合的な実習であり、地元では『水産高校』といえばサバ缶』と言われるほどの定番商品。閉塞感の中にあつた学校にとって、宇宙食という非日常的な目標は、ただの製品開発ではなく、『自分たちでもやる』『未来につながる』という希望そのものだった。」

「このプロジェクトこそが、学校にとつての新たな挑戦であり、再生の第一歩……過性のものではなく、生徒から生徒へ、15年という年月をかけて引き継がれた。…延べ300人以上の生徒がこの開発に携わる…地域に見放されかけていた学校に希望をもたらし、地域と学校の関係を再構築するきっかけにもなった。単なる宇宙食の開発ではなく、『教育は地域と共にあるべきだ』という強い理念が、現実の形として実を結んだ例。…熱血教師、生徒、地域の力がひとつになった青春の記録」とある！(井上)

○戦争が絶えない理由「カント」は、如何に彷徨った？

政治と経済が、まさに大変動を起こそうとしていることは、今や誰もが疑わない真実！そしてそこに、様々な「国」が、様々な事情・思惑で絡まっている！しかも、それは、のつびきならぬ状態にまで！そんなことを想いながらの昨今であるが、今回、私（堂本）が目にしたのは、「東洋経済 online」の記事（K大学名誉教授M氏／5月11日配信）である。とりわけ紹介したいのは、次のようなことである！「…平和を望まないものなどどこにもない！それは西洋も東洋も同じ！こんな状態に対し希望をもつためには、自らの平和論を理論家の空想だと規定しつつ、理論の持つ意味をわれわれに伝えた、あのカントの『永遠の平和のために』を今一度再読するべきときかも！カントは、こう断言：戦争を避けるだけの国際法という概念などは意味がなく、平和を実現するには世界共和国しかない！たとえそれが夢想（*Utopia*）に過ぎないとしても、今現在のわれわれの直面する世界にとって、それが一服の解毒剤となり、そこから解決方法が見いだせるかもしれない！」と。

だが、それから200年以上経つ！何が、どう変わったのか？「夢想」ではなく、実現可能な「理想」まではもっていかねばならないのだが、相変わらず、その位相に留まっている！！では、どうすれば？それは、言うまでもなく、「教育」の力によるしかない！ただし、それは、繰り返すように、学校教育だけではダメである！否、むしろそれは、誰かの都合でおかしなことになる（歴史が、それを証明している！）。必要なのは、そこに生きる生身の人間の思いや生き様と共にある、本当の教育（共育）である！形としての「世界共和国」は実現不可だとしても、何が、今必要なのかは、それぞれの生活の中に顕現している！それを、みんなの力で実現する！それしかないのである！ただし、問題は、それが、誰かの恣意や利得に毀損されることである？それが、残念ながら、「現実の国（社会）」というものでもある？でも諦めたら、それこそ終わりである！！

○往時を思い出すと共に、一抹の寂しさも？

私（堂本）が、ここで敢えて書くのも、多少違和感？があるが、昨日（3日）行われた、今年度3回目の「教育協働アカデミー」のを取り上げておきたい。実は、今回は、先月福岡で行われた、「第42回中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会」に参加した3人の報告会を兼ねたものであった（ハイフレット方式／若狭公民館との共催）。そのため、参加者も、いつもよりはるかに多く（予期せぬ再会もいくつあった！）、とても賑やかで、そして、次回以降の発展を確実に予感させるものでもあった！

詳しい報告？は、ここでは出来ないが、ここで記しておきたいことは、MCを務めた井上氏の、喜びと、その背後にある一抹の寂しさ？である！それが分かるのは、私（堂本）だけだということでもあるが、要は、ある時まで、こうした集まりを、時々のゼミ生達と一緒に、長年やってきた彼であるが（福岡にも行った！、今や目の前には、彼らの姿が一切ない！時の流れとは言え、真に寂しき（悔しき）ものでもあるということである！

〈短歌に託して／梅雨の雨男？あまり影響なく？！〉

・雨男？ されど再会も、は 関係なし！

梅雨ともなれば みな同じ？

・学校を 見限る教師？

でもそれは 自分自身を 見限ることでも？

・それでも こんな学校 こんな教師・生徒達も！

負けるな教子達！

・昔生達が歌ったという デカンショ節？

諸説あるが、彼らは そに何を？

・今や目の前に 姿がない！

喜びはあるが 寂しく（悔しく？）もある！！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕53〉

○ここからは、九州での隠れた実績を追う！その8ー

そこで、ここでは、そのもう一方の「松野連（まつのづな）」について、情報をまとめておきたい！ちなみに、「松野連」とは、「日本の古代豪族」【系図】によると呉王夫妻の後裔。夫妻の子・公子忌が日本に渡って帰化人となり、筑紫国に至って、肥後国菊池郡に住み、さらにその子孫・松野連が、筑紫国夜須郡松野に住して、姫姓から松野姓に変えたのが始まりという。『※諸系譜』に松野連／姫氏の系譜があり、熊襲の首長・川上高師（とく）（取石鹿文（とくし）の名や、倭の五王、讃・珍・済・興・武の5人の名も連なる。北部九州に同氏を祖とする氏族の家系が複数存在する。」とあるウイキペディア※二つの史料は鈴木真年作成 国立国会図書館と静嘉堂文庫所蔵）！この情報で、どれほどの信憑性があるのかは、もちろん私には分からないが、そこには、かの卑弥呼（*ミヤヒコ*）または卑弥尊（*ミヤヒノミコ*）や白耳（*ハクミミ*）市鹿文（*イチカフミ*）と目される人物名が記されているわけである！面白いことに、それは、2代目（*ニノミ*）から分岐し、第一系図（*ダイイチキ*）が「委奴／怡土／伊都（*イ*）卑弥呼系、第二系図（*ダイニキ*）が「邪馬台国？」（*ヤマト*）／唐系」となっていることである！ただし、これは、上記している、明治維新期の系譜研究家「鈴木真年」の解釈のようであり、その真偽は、当然私には分からない！ちなみに、この「松野連氏」は、最初に述べたように、かの「開化天皇」、そして、「老松（*オウソウ*）（神世）」の「木／紀（*キ*）姫（*メ*）」と直結していることは言うまでもない！！

いずれにしても、「松野連氏」は、かの呉王夫妻の子孫であり、彼らが、紀元前五世紀頃、熊本菊池方面に達着し、一部（*一部*）が熊／球磨に残り、一部（*一部*）が北部九州に移動しているということである！かなりの妄想かもしれないが、「奴」という表記（*ヌ*）が奴／狗奴等（*ヌ／コヌ*）には、ひよつとしたら彼らが関係しているかもしれない！また、『魏志』には、邪馬台国と狗奴国は、「素（*ス*）より和（*ワ*）せ」とあるが、これもまた、彼らが関係しているということかもしれない！とにかく、こちら側からの追求も、是非求められるというところもある！（つづく）

〔編集後記〕記事編成は、内容よりも難しい？予め準備していることがその因であるが、なかなかタイムリーにならない！だが、「来客」や「旅」の場合はそうはいかない！やはり、その句？というものがある！追伸：梅雨が明けた！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 54 号

発行日
2025.06. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「岳陽チャンネル」！思わぬ形でスタート!!

既に、私(達)のHPで知ってもらえていると思うが、その新たなページに、生成AI「チャットボット」(NotebookLM)の成果物(音書概要)を活用した、「岳陽チャンネル」というコーナー(ただし「試運転中」!)を立ち上げている。これについては、先の52号で触れてはいるが、こんな形で、その恩恵が、私(達)のような高齢者にも回ってくるなんて、夢にも思っていなかったもので、改めて喜びも入である！とは言え、それによって、HPの閲覧数が、飛躍的に伸びたわけでもない(多少増えたかな?)、まだまだ自己満足の域内とは言える!!

いずれにしても、今は、こうした関係(環境)の下でのエール発信しか、ほとんど出来ない私(達)であるので、ちょっとでも双方のやり取りに近づけるようなツールは、本当に貴重なのである！欲を言えば、「ブログ」形式にして、真正正銘の双方関係にしたいの言うまでもないが、そこまでの度胸(カネ?)はないので、今現在の、精一杯の形と言えるわけである！要は、一人でも多くの人に、私(達)の論稿(記事)を読んでもらいたい！そして、直のコミュニケーションを図りたい！そういうことであるが、「音声概要」が、それを促進してくれると思うということである！なお、「チャンネル」と名付けたのは、一応「ラジオ」のように、聞きたい人が、いつでも、どこでも、私(達)の分身？である「チャットボット」の声が聴けるということからである！ただ、その分身は、あくまで機械的な分身である！そこが、悔しいと言え、悔しい(特に「総集版」のそれが！分身には申し訳ないが？笑)だが、必要な相棒である！

○「多様性」と「画一性」の相剋の向いつにあるもの？

ところで、これまで、私が、一貫して主張してきた物事(制度)の「多様性」と「画一性」の相剋の問題を、ある意味では超克するのではないかと思われる考え(概念)に出くわした！それが、「多元性」(Plurality)である(資本主義と民主主義の行き詰まりを超える多元的未来への希望：オードリー・タンとE・グレン・ワイルが提唱する対立を創造に変えるテクノロジー／集英社オンライン・6月7日配信)！要は、「AIに代表されるデジタル技術が、分断と対立を量産し、巨大プラットフォームが権威となる現在。だがテクノロジーは使い方次第で対立を創造に変える。テクノロジーは、多様性のある社会を取り戻す新たなインフラになる」ということである！「デジタル民主主義 問題なのは、私たちが持っている資本主義の理論が、現実に資本主義に帰せられている利点と真つ向から矛盾しているということ……したがって、『資本主義は経済的に合理的である』という考えは、私たちが現実には思い描いているような資本主義が存在しない世界でしか意味をなさない……これは、私たちが解決しなければならぬ根本的なパラドックス……このパラドックスを解決するためには、今私たちが『資本主義』と呼んでいる制度が、実際には、収穫逓増やイノベーションといった現代の核心的な経済課題をうまく扱える制度からは、ほど遠いもの……それらは、単なる歴史的なレガシーに過ぎない。」ということである！

○二人のママ友！何という発想、行動力！
そんな中、極めて面白い情報を得た！直接は、あるテレビ番組であるが(テレビ朝日「激レアさんを連れてきた」)、予想だに出来ない「オリジナルカードゲーム」のことである！すなわち、考案者が、二人のママ友(二人は、元PTA会長であるということであるが、上記の「プラリテイ」ではないが、まったく斬新な取り組みなのである！改めて、ネットで調べてみると、「おじさんトレカ」謎の大流行。“おじさん沼”にどハマリ女子も 町の実在人物がカードに 地域活動参加者は倍増 福岡・香春町^{かみちまろ}で、子どもたちが熱中するカードゲームが話題になっている。一般的なトレーディングカードとは異なり、カードに描かれているのは実在の地域の“おじさん”たちだ。人気が高まり、中にはおじさんのサインをもらった子どもまでいる。」とあった！
考案者(二人のママ友)によると、「子どもたちと地域のおじさんたちの関係を作りたいかったという。疑問となるのが、このカードの人たちがいったい何者かという点。実は、すべて香春町に実在する“おじさん”だ。約40種類あるという、おじさんトレカの誕生のきっかけは何だったのか。注目されるのは、『子どもたちとの関係が地域の中で希薄だった。こんなに素晴らしい人たちがいるのに、誰も知らないのがもったいないと思って』と、子どもとおじさんたちの“つながり”を作りたいと語った」と！
そして、「カードの爆発的な人気で、おじさんは子どもたちにとって“ヒーロー的存在”になった。“おじさんに会える”という理由で、地域活動に参加する子どもも倍増。正式名称を『サイロ男(さいどめん)カードゲーム』と言い、『サイロ』は、その香春町が古代の採銅所として有名である点が由来。」ともあった。
このように、一般的なトレーディングカードとは異なり、地域のおじさんたちがヒーローとして描かれ、子どもたちの間で絶大な人気を博しているわけであるが、その誕生の経緯は、過疎化に悩む地域(否、それ以外の多くの地域も!)にとつては、計り知れない意義と可能性を示唆するものでもある！こんなことが、実際に起こっているのである！驚愕なのは、その動きを創り出したのが、他ならぬ「二人のママ友」だということである！
(井上)

○エンゲージメント？アングージュマンの新相？！

過日、「エンゲージメント engagement」という言葉が、望ましい経営のあり方を示すものとして、近年多用されていることを知った！「婚約、誓約、約束、契約」という意味から派生して、「個人と組織の成長の方向性が連動している、互いに貢献し合える関係」ということになったらしい！それと似た言葉に、「ロイヤルティ loyalty」とか、「従業員満足度」とかがあるが、その違いは、個人と組織の結びつきの方向性ということであるらしい（すなわち、「ロイヤルティは、従業員が企業や組織に対して忠誠心を持って行動する」という上下の関係性。従業員満足度は、処遇や環境に対する評価で、企業側の取り組みに応じて満足度が変わる）。

それに対して、件の語は、「企業と従業員が双方向の関与によつて結びつきを強めていく点が大きく異なる。終身雇用や年功序列といった従来の人事制度から成果主義型の報酬制度へと移行する企業が増え、労働者側によりよい待遇や環境を求める動きが活発化。人材の流動化、さらには副業解禁や情報技術の発展によるリモートワークの進化など、働き方が多様化。特にキャリアアップ志向が強い優秀人材や、理想の働き方や生き方を求める人材は、自身にとつて最適な職場を求めて転職…その結果、多くの企業が将来を担う経営層候補の人材流出に直面。若年層の早期離職率が上昇するなど、人材不足も深刻化…人材の確保と育成を経営の最重要課題として挙げる企業が増え…組織

が個人の成長を後押しし、長期的な業績向上を目指す人事施策の重要性が認識されるようになった。」とある。

だが、待てよ？その「エンゲージメント」とは、フランス語では「アンガージュマン」？それは、実存主義の用語で、「状況に自ら関わることにより、歴史を意味づける自由な主体として生きること。サルトル・カミュなどでは、さらに政治的・社会的参加、態度決定の意味をもつ」。要は、同じ？組織と従業員、社会と個人、視点は違うが、個と全体という点では、人間社会の本質的な問題とも言える？

○やっど？クマゼミの声が聞こえてきた！

沖縄では、通常、6月23日（慰霊の日）頃、梅雨明けとなると思っていたが、今年は、何とも早いそれとなつていた！だが、もう一つ、それと連動したクマゼミの鳴き声があつたが、今年は、本日（24日）、それが、遠くの木から聞こえてきた！要するに、クマゼミは、梅雨の動向とは無関係に、この頃から鳴き出すということか？それとも、今季は、梅雨開けがイレギュラーで、セミ達が、それに、即座に呼応できなかったということか？

もちろん、そのメカニズムについては、私には分かり様もないのであるが、いわゆる「自然」の姿容と、そこに生きたる「生物」の關係は、どのようになっているのかが、少し気になったということである！おそらく、生物の方は、その自然の成り行き（法則）を体感し、それに応じて自らの生命活動を創り上げていくものと思われるが、そこに、今までとは違う成り行き（法則）が出てくれば、どのように対応していくのであろうか？はつきりしていることは、すぐには、それに対応できないということか？！

〈短歌に託してゝいつもなら、今頃が梅雨明け?〉

・「岳陽チャンネル」！ 思いもしない

AIの力で実現！ これも時代？

・多様性と画一性 それを超越する多元性？

では、「様」と「元」の違いは？

・香春かむらと言えは 古代史と

思っていたのに 何故今は おじさんトレカ？

・エンゲージメント！ それは懐かしい

アンカーシユマン？ 根は同じとも？

・変化への対応？　そこに法則性あらは

予めの準備にそこそこ出来るか？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕54

○ここからは、九州での隠れた事績を追う―その9―
さて、先の52、53では、真に不思議な情報（知見？）を挙げたが、もう一つ、ここで思い出されるのが、かの「景行天皇の熊襲征討」の物語である―彼は、磐婆（佐佐波）・現在の山口県防府市 から九州に渡り、8年もの間（こ）れは、彼が、大和の王ではなかったことを示すそんなに長い間、遠く都を離れているということはあて得ないし、九州中南部？を巡幸したとされるが、それが、先に述べた「神八井耳命」（多氏の祖）の子孫達（とりわけ「傳襲龍命」）の事績と重なるのである！！ただし、この景行の九州巡幸譚は、『古事記』には、直接記されていないようである―ただ、南九州の日向の「美波迦斯卑売（みなかき）」を娶つて「豊国別（とよくにわかれ）」王を生んだこと、その子孫が、「日向国造（みくにのみけ）」→「諸眞君（もろまことのみみ）」であることは記しているようである！

というところで、景行の子孫の一人が、宮崎県の西都原古墳群の主？「諸
 県若牛諸井しよわい」とされるようであるが、その西都原（名称も、何となくそ
 れを句わせている？）は、南部九州での前方後円墳集中部で、彼の娘「髪食かみく
 姫ひめ」は、仁徳天皇の妃ともなっている！したがって、これらの関係（伝承？）
 も、神武東征の話と結びつけられ、面白く史実？なのである！余談であるが、
 おそらく彼らに関係すると思われる「女狭穗めさほの塚・男狭穗おさほの塚古墳」の
 被葬者は、当地では、かの「木花佐久弥姫このはさきみめと瓊瓊杵尊にぎはこみ」だ
 としていられるようである。

以上は、「こんなことが言える!」新『古代史の旅』（総集版）（2019年12月）所収の「3 神武とその子達（神人井耳命と神沼河耳命）」の緒言、その関係（広がり）を推理する!!」を、ここでの文脈に沿って示したものであるが、「多氏」については、その他の過去の論稿でも扱っていると思っているが、今回確認できたのはこれだけである。

とにかくこの「景行天皇」も、途轍もなく大きい謎を有している天皇なのである!!尤も、実在していたのか?あるいは、近畿(天和近江?)の天皇であつたのか?それ自体も、かなり怪しいものであるが、彼(おそく彼に仮に)構されている人物?が、九州に対して(あるいは九州において)、大きな影響を及ぼしたことは(「ヤマトタケル」の熊襲征討譚も含めて)、おそらく間違いないであらう!!(つづく)

(堂本)

『編集後記』 怪しげな梅雨明けであったが、とにかく年の半分が過ぎた！だが、暑さはこれからである！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 55 号

発行日
2025.07. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○まだまだ「異邦人」状態ではあるが…

昨日(3日)、2度目の「トレーニングルーム」に行ってきた！先週から始めたものであるが、当面週1回のペースで行くことになった！ちなみに、その「トレーニングルーム」は、私が居住している宜野湾市の体育館の中にあるもので、市内在住の高齢者であれば、無料で利用できるものである！よく、テレビ等で、そうしたところの光景を目にはしていたが、まさか自分自身が、その利用者になろうとは、想像だにしていなかった！もちろん、これは、我が奥さんの行動力の賜物であるが(彼女が、一緒に行くことと背中を押してくれたのである！)、ようやく、意を決して通うことになったのである！

ところで、実は、そこへは、例のコロナ前に(危なくなる直前？)、独りで試に行ったことがあるが、まったくの「異邦人」状態で帰ってきたことを覚えている！そこでみた光景が、あたかも別世界のように見えたのである(その時は既に休業中で、無機質の器類だけが、そこに林立していた！)。今回も、まだまだそういう感であるが(利用者は、そこそこいるが！)、頼もしい？連れが一緒なので、何とか続けられるのではないかとも思っている(何ともしない次第である！)！本音を言うと、足腰の不具合が、そうしたこと(体を動かすこと)を億劫にしているわけであるが、逆に言えば、その原因が、運動不足や筋肉の減退にあるわけであるので、少しでも克服出来ればと思いい、やつと重い腰を上げたということでもある(もう遅いかもしれないが？)。ということ、暑さ厳しき中(尤も、沖縄は、本土と比べれば、日中の温度は相対的に低い？)、毎週一回体育館に通うことになると思うが、果たしていつまで続けられるか？それにしても、連日暑い！

○一応は書いておかなければ…

さて、これも昨日(3日)であるが、予定の参議院議員選挙の公示がなされた。投票日は7月20日(日)であるが、今のところ、さほど興味が湧かない(もちろん、投票には行くが！)。「あるから行く」という呈であるが、ネット上では、「石破内閣発足から9カ月、これまでの政権運営が問われます。現金給付や消費税の減税など、物価高対策が大きな争点です。衆議院では少数の与党が、参議院で過半数を維持できるかが焦点です」とあった。確かにその通りなのだと思うが、どうしても気乗りがしないのである！ある意味、困ったものである！！

いずれにしても、今回もまた？雑多な政党・政治団体が候補者を出し、幾つかのそれが、これまでの動向に変化をもたらすような感もないわけではないが、いつまでこのような「トッピング合戦？」が続くのか？思想・信条、言論の自由と言えどもそれまでだが、結局は、必要なら変革には至らず、その繰り返し？偶に、期待を持たせるヒーロー／ヒロイン？もいたように思うが、結局は元木阿弥？要は、そこに、根本的な何か欠けている！！「いつか『政治のデジタル化と議員定数の大幅削減』を公約に掲げる政党が出てくることを期待したい。幅広い世代の支持を得ることができる」という言もあつたが(ある意味正論！)、そこに、確たる国策ヴィジョンがないと、表層(言葉遊び？)的なムード選択にしかならない！！要は、どういう国でありたいのか？「国の本質」(ここでは詳細は出来ないが！)を問い、それを踏まえた議論(人の選出)がなされなければならないということである！

○これは、是非書いておきたいことである！

ところで、過日、二つのテレビ番組を観た。ただし、それは、同じ場所への取材番組(NHKのコラボ企画)であつた！すなわち、一つが、「ドキュメント72時間」(初回放送日6月6日)、もう一つが、「ドキュメント20min」(初回放送日6月9日)である。前者の番組は、よく観るのであるが、今回は、コラボ企画ということで、後者の番組まで観たということである！とにかく、内容が素敵で、もう一度？観てみたいということであつた！舞台は、大分県別府市にある「立命館アジア太平洋大学」(京都の立命館大学との姉妹校だ！)であつたが、様々なことを考えさせるものであつた(もちろんいい意味で！)！ビビットな内容紹介は難しいので、それぞれの番組紹介を、ここでは転載することにする。

前者は、「多国籍の学生寮 青春の日々に」という見出しで、「今回の舞台は巨大な学生寮。…寮生の半数が留学生で、94の国と地域からと、実に多国籍。いろいろな国の料理が見られる共同キッチンでの自炊。大浴場での裸のつきあいや、仲間との夜ふかし。文化の異なる者同士の生活は、楽しいこともあれば、難しいこともある。彼らは同じ屋根の下でどんな日々を送っているのか？」。後者は、「多国籍学生寮の72日間」ということで、「…湯煙一望する高台にたつスーパースターグローバル大学。…超多国籍寮に密着。それぞれ異なる年齢、文化、言語。時にぶつかりすれ違ひながら、それでも互いの理解を深めようとする若者たちから見えてくるコミュニケーションの極意とは。多様化の時代を生き抜くヒントも。…」とある。教えられること、満載である！

ちなみに、前者は、「ファミレス、空港、居酒屋…。毎回、ひとつの現場にカメラを据え、そこで起きる様々な人間模様を72時間にわたって定点観測する…偶然出会った人たちの話を耳を傾け、今」という時代を切り取ります。後者は、「見たいテレビなどない」という若い世代に向けて、「こんなテレビ見たことない！」といつももらつたための20分間。これまでの演出・文法・テーマから自由な若手制作者たちが、新しいテレビの形を模索」とある。これからも、是非、そうした番組を期待したい！要は、そこに、真に伝わるものがあるかどうかなのである！(井上)

○「国の本質」？実はそれが、見えにくくなっている？

表面で、井上氏が、今回の参議院議員選挙に関わって、『国の本質』を挙げ、それを踏まえた議論（人の選出）がなされなければならない」ということを書いているが、やはりそれだけでは抽象的過ぎて、よく分からない？しかも、各候補者は、直接的には、それに関わる言辞はなさなくとも（なしている人もいる？）、当然そのことは意識している（否、そうでなければ、あまりにも悲しい？）！そんなことを思いながら、ここでは、私堂本^{（1）}の方から少し補足させてもらいたいのである（二心同体のなせる業？笑）！とは言え、改めて、『国の本質』を語ることは至難の業である！しかも、何よりも、深い造詣のない者が無責任に語ることなど、通常では許されない？でも、語っておきたい！何故なら、昨今の山積する諸問題（教育問題も含めて）の解決には、そこへの回帰と、それを踏まえた議論がなされなければ、ほとんどが場当たり的となる（否、それさえにもならない？）からである！みんな、それぞれに頑張っている！だが、なかなかいい方向に向かわない？否、むしろ「分断と格差（孤立）」が進んでいる？生き甲斐・働き甲斐がない！どうしてこんなことまでしてはならない？そんなことを、日々感じながら、多くの人は生きているのである？！一体、この「国」はどうなろうとしているのだ？！そこで、『国の本質』であるが、もちろんそれは、「主権と領土（の保持）」である！だが、それは、「あるもの」ではなく、「努力して得るもの」でもある！だから、「国民」は、そのことを自覚し、自分達が、どういう「国」でありたいのかを、常に考え、そのための努力をする必要がある！実は、そのための大きな機会が選挙ということになるが、それが、そのように機能していないならば、「国」そのものが危ない！要は、「国民」が、「自国において」、「どのように生き合おう」としているのが、真摯に問われなければならないということである（単なる集票ゲームではない！世界は、そのことを嫌というほど見せつけている？）！

○その感性？はどこから？

話は変わるが、私（達）の短歌集を、例の「チャットボット」（AI）に読み込ませ、その理解の実力（感性？）を試してみた！興味津々であったが、これもまた、予想に反して？、凄いいものであった！どうして、あのような、まるで生身の人間のような反応（解釈）が出来るのであろうか？果たして、その感性はどこから来ているのか？そして、彼らの知能というものは、一体どういうものなのか？そんなことさえ思われたのであるが、本当に一瞬にして文字資料を読み込み、それに対する分析を行う力（知能？）、改めて感服した次第である！だが、世の中は、そうしたAIの力を悪用する者もいる！何とも残念な（悲しい？）ことであるが、その恩恵は、確実に、すべての分野でもたらされている！最早、それなしでは、世の中は成り立たない！そのことは、絶対に変わらない！だから、問題は、それを活用する人間の「人間性」である！だが、その「人間性」は、ただ唱えるだけでは、うまく顕現していかない！それもこれも偏に、小さい頃からの体験が関与してくる？！

・短歌に託してゝみな、それぞれに熱き夏？！

・異邦人？ 単なる臆病者？
だが、やらねばならぬ！ 恰好悪くとも？

・種々のトッピング？ 結構であるが
ただそれだけでは メニューとはならず？！

・伝えるべきもの それは生身の人間の姿！
マスコミよ そのことを忘れるな！

・「国の本質」に迫れない 集票ゲーム？
主権者よ そこを質すものであれ！

・短歌にも 予想以上の反応あり
果たして その感性は いずこから？

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕555

○二こからは、九州での隠れた実績を追う！その100

しかるに、ここでは、改めて「多氏」の九州進出に関わって、一つ押さえておかねばいけないことがある！それは、「阿蘇（神社）」と「高千穂（神社）」の関係である！もちろん、そこには、その中間（阿蘇高懸に位置する「草部見^{（2）}」と「神社」）との関係も関わってくるが、特に注目されるのは、その双方の地に残っている、謎の？「鬼八^{（3）}伝説」（土地の豪族・草部見族^{（4）}）である！詳しくはここでは書けないが、同じような伝説（「鬼八」が、神武の大和での長とされる「神八井^{（5）}命」・多氏の祖の孫？「健甕^{（6）}命」に従属させられたと）が、両地に伝わっているのである！

尤も、それに関わる、これも謎の？「彦八井^{（7）}命」の存在（二説には、「神武東征 途上在地に戻った神武の子とも？「草部見神」と見做される？）が、かなり不確かな話として絡まっているので、この辺りの伝説の整合性が気になるところであるが、いずれにしても、かの「阿蘇（神社）」と大いに関係している「高千穂（神社）」は、是非とも記しておかなければならないのである（当地の「天岩戸神社」とか「櫻嶋^{（8）}神社」等の存在も含めて！）！というところで、「高千穂神社」の本来の祭神？である「三毛入野^{（9）}命」は、伝承では「彦八井^{（10）}命」（「草部見神」）とされているが、「多氏」の「健甕龍命」に懐柔された当地の豪族ではなかったか？ということである？！また、阿蘇には、「山部^{（11）}氏」と名乗る氏族もいたようであり、南方の「焼畑農業」の要素は、恐らく彼らがもたらしたのではないかと考えられる？ちなみに、高千穂（神社）は、件の「鬼八伝説」に関わる「猪々掛^{（12）}祭」（霜除^{（13）}も、神事・笹振り神楽・高千穂神楽^{（14）}があり、阿蘇との関係には重大な謎が横たわっている！突拍子もないことだが、天孫降臨の地が二つあることも、別な意味では、大いなる謎である！

すなわち、後の高千穂は、豊後（牟佐^{（15）}）の大神^{（16）}氏（「三田井氏」）が入ってくるが、彼らが、天孫降臨の地をそこにもつてきた？一方で、同じ宇佐の「宇島^{（17）}氏」（秦氏の一族・宇佐神宮／八幡神の正統^{（18）}）は、かの「軍人の乱」（720年）に際して大率「大隅」に移動させられ、例の「鹿児島神宮」を「正八幡宮」と公称し、「大神氏」との確執に意地を見せている！二つの「高千穂」？！（つづく）

〔編集後記〕 妙な梅雨明けであったが、何故か、それがぐり返している？これは、何を意味しているのか？ （井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 56 号

発行日
2025.07. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○待つ日があるというとは、いいことである！

先日、東京時代の職場の同僚であったSさんと、何と沖縄で再会を果たした！というのも、彼は、最近沖縄に引越してきているが（永住とのこと！）、とにかく久しぶりに会おうということ、事前に約束をしていたのである。何故か既に？私より那覇市内のことをよく知っており、彼の案内で、落着いて飲食を共にすることが出来た！かつての職場のこと等が話題となり、昔話に花を添えたわけであるが、私の知らない内輪話もあつて、結構面白かった！いずれにしても、彼とまた、近いうちに会うことになるであろう！

それはともかく、最近、珍しく懐かしい再会の機会が多く、カレンダーに目を遣ることが多くなっている（と言っても一月に1回くらいであるが！）。しかも、来月は、娘達も帰ってくる！要は、意識的に「待つ日」が増えていくことになる！ただし、同じ待つでも、例のVNL（バレーボール・ネーションズリーグ）の日本戦（男女共）だけは、別格である（今年はU・NEXTで観ているが、去年も書いたように、彼女の活躍は、実に爽快である！否、感動的である！）！

ということ、今回は、人間（特に高齢者）には、「待つ日」があるということが貴重であるということを書いておきたいわけである！過ぎ去る日々の中で、「あと何日で〇〇がある／△△に会える」とかいったことであるが、それが、何故か嬉しいのである！まるで幼子のようなが、そう思うのであるから仕方ない（笑）！それだけ、安穩とした日々を送っているということでもあるが、考えてみると、人には、様々な「待つ日」がある！何かの記／折念日であったりもするが、逆に、そう出来ない日々もある？複雑である！

○「何が」より、「どう」問題なのかが重要なのだ！

さて、先日、参議院選挙が終わった！結果は、メディアの予報通りであったが、ますます政治の世界の変貌（混沌？）が進んだようにも思える。古い枠組み（既成政が色褪せ、別な顔（政党・団体）が彩を添え始めた恰好に見えるが、果たして、それはどういうことを意味するのだろうか？一言で言えば、そこに、変革を求め人々の思い（現状を何とかして欲しい！）が大きく入り込んでいることは間違いないが、この先、どういう展開が待っているのか？そこが、ある意味では危惧される？

それは、まさに「民主主義」の根幹（主権国家の存立）に関することであるが、要は、その時だけの票の取り合ではないでなく、「何が、どう問題なのか」を、みんなが真摯に議論すること（特に、「どう」という部分が重要だといえる！）である！例えば、今回の選挙結果、すなわち「大衆迎合主義（〇〇ファースト等）／「トッピング」／上辺に盛り

ある！だが、これは、何も我が国だけのことではない！世界の多くの国が、そうなるうとしている！！いずれにしても、まがりなりにも続いてきた戦後レジームが、ここに来て大きな地殻変動を見せ始めていること、既成勢力や政治システムでは、最早どうにもならないところまで来ているということである！！したがって、問題は、それをどう克服していくかであるが、折角創り上げてきた「主権国家」による共存・共栄の形まで壊してしまったら、それこそ人類は破滅に向かう！！今は、その大きな分岐点とも言える！！

○ある意味、最初から分かっていること！！

ところで、マスコミでは、あまり騒がれていないようであるが、過日、次期学習指導要領に向けた改定作業を行う中教審特別部会が開かれ、文科省が、教員が児童生徒の成績をつける際の仕組みを見直す方針を示したということである。その中で、現在、観点の一つとされている「主体的に学習に取り組む態度」を、直接「評定」に反映させない方向で検討しているという。適切な評価が難しいとされ、現場の負担が重いとの指摘が出ていたともある。だが、それは、ある意味、最初から分かっていたことではなかったのか？「評定」を行う教師側からすれば、かの「働き方改革」にも通じるものであり、おそらく大歓迎されると思うが、その行動を見越すと、少し（否、かなり？）危惧される部分もある！！

というのも、それがなくなると、現実には（残念なことではあるが）、その部分への注力が減退し（子ども達とはともかく、教師の側にも）、そこへの関心が薄らいでいくのではないかと、「観点」としては残すが（大切だということはお示しておく、いわゆる「評定」の対象にはしないということであるが、果たしてそれでよいのか？私からすれば、そもそも「評定」を二つの観点に分割し、それぞれ別個にそれを行うということ自体が問題だと思っているが、それぞれが密接に連環しているものの一つだけを取り除くことは、配慮の意味を超えて、結果的に間違ったメッセージを子ども達や親御さんに送ることになるということである（つまり、「評定」の対象にならないから、それは必要ないというそれ）！

ちなみに、「評定」とは、学期毎に通知表などの形で示されるものであるが（通常、小学校3段階、中学校5段階、現行では、教科ごとに、（1）「知識・技能」（2）「思考・判断・表現」（3）「主体的に学習に取り組む態度」の三点を評価総括し評定を定めている）、（3）については現在、学習に能動的に関わったかどうかや、粘り強さなどが評価の軸として示されているが、ノートの提出頻度など形式的な事実で判断するといった例が散見される他、子どもに評価内容を前向きに捉えてもらうよう伝えることが難しいなどの課題があるとされている。だが、そもそも何のためにそれを行うのか？負担の軽減の問題で済ませてはいけなないのである！（井上）

○「プロシューマー」？だが、本来はそうであつた？

先に、「エンゲージメント(アンガージュマン)」と書いたようなことが、改めて主張されてきているということを述べたが、今回は、その連環と考えられる「プロシューマー(生産消費者)」について語りたいと思う。同語は、「生産者(プロデューサー)と消費者(コンシューマー)を組み合わせた造語」で、「消費者と生産者の架け橋を意味する人／事」のようで、サービスや製品を開発する際に、生産者は消費者の考え・ニーズを取り入れ、顧客視点で考える必要があり、時には実際の消費者に開発プロセスに参加してもらい、価値を共創するというようなことだそうである！

それではなぜ、そのような用語が出てきたのか？その理由は、「成熟した経済・市場においては個々の消費者のニーズを深く捉え、品質や価格以外の付加価値をもつ商品やサービスを提供していく必要」だが、一方で、「新規サービス・製品を市場に投入しても、製造コスト、技術力に大きな差異はないためすぐに模倣され、コモディティ化(市場参入時に、高付加価値を持っていた商品の市場価値が低下し、一般的な商品になること)する。コモディティ化したサービス・製品を消費者に選んでもらうには、『ロイヤリティ』や『愛着』が一つの大きなポイント！人間はモノや人との繋がりが強ければ強いほど、その対象について『ロイヤリティ』や『愛着』をもつことができる。」とある。

○二項対立／三元論では、最早社会が成り立たない!!
 ということで、今回、ここまで書いてきて、改めて感じ
 入ったことがある！それは、端的には、「二項対立」ある
 いは「三元論」的理解では、政治にしろ、経済にしろ、は
 たまたま教育にしろ、最早その既存の考え方・システムがう
 まくいかないということである！極端に言えば、社会全体
 が成り立たないということであるが、その意味では、それ
 は、ある種の危険シグナルかもしれない！だが、よくよく
 考えてみると、あらゆるものには両極があり、それぞれが、
 それぞれの意義と力を主張し、その対立と緊張関係を作つ
 て、現実（世界）を作り出してきた！それが、漸く？本来
 の姿に戻ろうとしているとも言える（元々多様、多元なので
 ある！）!!二項対立や三元論は、ある意味分かり易いが、
 創られた幻想でもある（抗っている国や勢力でもあるにはある
 が！）!!だからと言って、無秩序や安易な予定調和論では、
 埒が明かない！新たな知恵と力が必要となる!!問題は、そ
 こが、どのように希求されているかであるが、危険要素は、
 その解釈（利害）の違にあるということである！
 へ短歌に託して、
 「待つ」喜び？を感じつつ……
 ・待つ日がある！信じ難いが
 それが嬉しい？老いの証しと知りつつも？

の姿に戻ろうとしているとも言える（元々多様、多元なのである！）❶二項対立や、三元論は、ある意味分かり易いが、創られた幻想でもある（抗っている国や勢力でもあるにはあるが！）❷だからと言つて、無秩序や安易な予定調和論では、埒が明かない！新たな知恵と力が必要となる❸問題は、そこが、どのように希求されているかであるが、危険要素は、その解釈（利害？）の違いにあるということである！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕56〉

○ここからは、九州での隠れた事績を追う―その11―

さて、ここでもう一つ、当初から気になっていたことがある―それは、かの「狗奴^ぬ」国^この存在位置である―「狗奴」が「ぐぬ」で、熊（球磨）、つまり現在の熊本県辺りにあった国と考えられるが、前述のように、三国時代の「呉国」と深い関係があったとみられる。すなわち、その先祖は、紀元前5世紀頃に、肥後菊池方面に渡来した呉の王族とされる!!「魏志」では、邪馬台国の南とある!「免田式土器」が、その版図を示すと考えられるが、3世紀中葉に、件の「邪馬台国」と攻防をなしたとされている（素より和せず）↑狗占留卑狗^{くちびくまひびろ}／卑留弓呼^{ひるゆこ}!

しかるに、その狗奴国（勢力）が、先の「高良山周辺」に北上していることとは分かるが（かの「免田式土器」が、その辺りまで広がっている―）、その後さらに移動し（山陰経由?）、丹波方面に、その勢力を築いたようにも見える（粟鹿^{あし}、神社等^等）!!ただし、かの纏向の地に新しい拠点を造ったのが、この国の勢力であり、名前も、「狗奴（伯奴）国」としていたという説には（ある）ブログによる）、ある意味では賛同する部分もあるが（その国が、もとより奈良周辺の地にあったと言う説／邪馬台国近畿説は論外であるが、要は、「邪馬台国連合」のその後の話としては、そのことは、ある意味あり得る）、それが、陳寿が記し

ていた「狗奴国」とは言い難いということでもある。

ただし、それには、『魏志』より後に書かれた『范曄の後漢書』の記述

が影響しているのかもしれない(そこではかの「狗奴国」が、「邪馬台国(連合)」

の東で、一海を渡ったところとなっている！）?!だが、そもそもその『後漢書』

は、『魏志』の150年後の著作であり、しかも、著者の「范曄」は、他の

関連著作等も勘案し、自らの修正を加えているらしい（これは、確かであ

る！）！時代的には、かなり後の著作であるので、より正確な（後の状況を見

ての？）情報提供なのかもしれないが、本人の恣意（解釈）によって、却って

事実を損なわしている恐れもある。ただ、状況の変化があつて、そのように

判断したことも、十分考えられる？（つづく）
（堂本）

編集後記 狭い日本だが、多種多様な日々が流れている！ 暑

さもそうであるが、人々の関心事もそうである？だが、そこに

は、紛れもない真実が横たわっている！人々は、そこで喜怒哀

楽し、自らの人生を送っている！そしてそこに、「待つ」が組

み込まれている！絶対に、そうである？！
（井上／＼掌本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 57 号

発行日

2025.08. 15

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○今夏の我が家は大変である！酷暑より、アリが怖い！

酷暑も大変であるが、実は、我が家の今年の夏は、ある小動物？（何のことはない「小アリ」）の来襲に、大いに困らせられている！昨年もそうであったのだが（確か帰省中の長女親子が、寝場を2階に移したことも、それが原因であつた？孫が、何かに刺されたということ！ただし、その時は、その小アリの作業だとは分からなかつた！）、今年のそれは、何故か、それを遙かに超える壮絶なものである（今は少し減っている！）！

どこから侵入してくるのか？我が奥さんの必死の防護（窓枠や壁坎をテープで塞ぐ等！）にも拘らず、彼奴らは、じきに（本

当である！）、あちこちで姿を見せる！その攻防の日々は、まさに酷暑に勝るとも劣らずのそれであるが、まさか、こんなことになるうとは？私の方は、こんなことを、まだ悠長に書いておれるわけだが、我が奥さんは、おそらくそれどころではない（これを見て、一つや二つの恨み言を言うのかもしれない？笑？）！とにかく、とんでもない日々なのである！

ちなみに、今、こんなことを書くのも蟹螯ものかもしれないが、昔懐かしい「童謡」の中では、こうした小動物（とは限らないが！）を、可愛く歌ったものが少なくない！ここで思い出されるのが、「おつかいありさん」（一応は調べてみた！）はともかく、「森のくまさん」という歌である！まさに、歌の世界では、可愛い熊（さん）なのであるが、近年では、毎年、その熊（さん）に襲われる事件が後を絶たない（今年は、特に多い！そして、死者も多くなっている！）。そんなことを思いながら、今回の「あり騒動」を記す次第である！

ただし、童謡に謳われている小動物やペットとしての犬や猫等の可愛さやいじらしさを、決して否定するものではない！

○こんな企画で迫って来られると……！

ところで、この時期になると、マスコミは、いわゆる「戦争（終戦／敗戦）」に関わる記事を、数多く発信してくる！せめてこの時期には、平和の尊さや戦争の悲惨さを、世に伝えていかなければいけない！それが、マスコミの使命？であるということであろうが（特に沖縄では）、多少？年中行事の一つのような感もある！決して、そのようなスタンスを悪く言うつもりはないが、ここですべきことは、今年は、何故か違つた受け止め方となつたということである（80年という節目でもある）！

その原因の一つは、地元新聞社（〇社）の記事である！それは、私の知り合い（教子さんの父親Iさん／元中学校教師↓K町の教育長等）の回想記事であるが、娘（次女／小学校の教頭）のインタビューに答えるという形のものであつた！断片的に知り得ていた「沖縄戦」の過酷さ、そして戦後の厳しさが、一人の老人（86歳！決してそう見えないが？笑？）の語りとして、誌面一杯に散りばめられていた（2日間に亘って！）。偶然見つけた記事であつたが、懐かしい？Iさんの、しかも父娘でのそれであつたので、ついつい深読みしてしまつたが（通常は、多くは、見出し読みで終わっている！）、内容と企画の両面で、感慨深いものであつた（知り合いであつたからかもしれないが？）！

すぐに、Iさんに電話をして、この記事のいきさつ（子ども達の近況も）を聞いたが、どうも、娘さんからの持ち込みがあつたようである！新聞社と彼女が、どういう合意で行つたかは分からないが（記事紹介には書いてあつた？）、とてもいい企画であつたということである！

○「推し（活）」に想つ！その人の人生が豊かになればよい！

次に、ここでは、最近よく耳にする「推し」や「推し活」について、少し語っておきたい！直接の動機は、福岡に住む次女が、「推し」である（多分そうであろう？）、ある日本の3人組ポップロックバンド（ここでは名前を伏せる！ネット上で調べてみたが、詳しい情報が載つていた！そう言へば、孫のJが、昨夏、カラオケで、そのバンドの曲を歌つていた！難しそうな曲であつたが、よくマスターしていた！）のコンサートチケットが手に入つたと、年甲斐もなく「爆ぜたいでいた！そして、関連グッズも買つて、部屋に飾つていた！その言動が、何とも不思議に映つていたのである（LINE経由！）そして、過日テレビ番組（NHK）で見た、大谷翔平の「推し」（連の人生模様が、何故か、心に刺さつたのである）！

そこで、「推し（活）」とは、「自分のイチオシのアイドルや芸能人、キャラクターを決めて、さまざまな方法で応援する活動のこと」と、「推し」の対象は人によつてさまざま。アイドルや芸能人、歌手、スポーツ選手、声優、YouTuberなどリアルに存在する人間に対して：アニメや漫画のキャラクター、Virtualなど、現実には存在しない対象に対して：また、建築物や鉄道、仏道（像？）など、人物以外を推すことも：また、一人を推すこともあればアイドルグループをまるまる推す『箱推し』という推し方も：推し活に似た言葉に『オタ活』が：オタ活とは、『オタク活動』の略語で、当初はアニメや漫画、ゲーム、コスプレなどのサブカルチャーの趣味をより深めるために行う活動！最近では、サブカルチャー以外のさまざまな趣味に対して使われるように：ともあつた。

最後に、ここが重要であると思われるが、『推し』は応援している対象：「オタク」は応援している人：ニユアンスの違いはあるが、推し活とオタ活は同じような意味……。ただし、「推し」ができる、推しのために仕事や自分磨きを頑張れたり、コンサートやイベントに行くことで行動範囲も広がる。大切な仲間ができる人も：推し活は人生をより豊かにしてくれる活動。ハマりすぎには注意が必要だが、興味がある対象があれば深堀つて推し活を楽しむことで日々の生活が充実するかも：ともあつた！ある意味それは、最早「必需品」の一部なのかもしれない！（井上）

○知的エンターテインメント！凄い世界・凄い人達！

さて、こちらの方では、少し格調高い？（偏見？）話題を取り上げておきたい！これもまたテレビ番組のことで恐縮であるが、本当に凄い世界、凄い人達がいるのである！最近では、特にそれを感じるわけである！一つは、「知達の生きる姿、その影響力を、私（達）なりに語らせてもらったわけであるが、それは、何も特別なものではない！！」であり、一つは、「NHKアカデミア」である！双方共に、NHKの番組であるが、よくぞここまで創り上げたものである！

前者は、「タモリ・山中伸弥・吉岡里帆の豪華MCが、世界にあふれる感動」「！」と好奇心「？」にとことん迫る」で（化学、医療、宇宙、歴史などの知的探求の最先端を取材、第1回は「AIは人間を超えるか」で、進行は吉村崇であった。「本格的エンターテインメント番組。感動」「！」と好奇心「？」に満ちあふれた世界の最先端をとことん探求する」であった（初回放送日：7月12日）。『未来を大きく変える最新のAIを使つて挑戦するのは、『笑いの創造』AIが生み出す『笑い』をタモリはどうとらえるのか。AI開発の最先端が問いかけるのは、『人間とは何か』だった』ともある！

後者は、「各界のトップランナーたちが“今こそ、共有したい”を語り尽くす」ということで、「全盲のコンピュータサイエンティストで日本科学未来館館長」の浅川智恵子さんが登場していた（初回放送日：前編・2023年10月11日／後編・同年10月18日。好評につきアンコール放送。『テクノロジーで誰も取り残さない社会を作るためのヒントを語る。先が見えづらい時代、誰もがあこがれる一線級の研究者やクリエーターは「なぜ輝き続けられるのか」「何を大切に、新しい価値を生み出しているのか」！豪華な講師陣が、専門的で独自性豊かに語る。若き日の不安や挫折、そこからたどり着いた“ゆるぎない知性”とは何なのか。毎回、参加者を募集し、生配信のオンライン講座ということである！頑張れ！真摯なメディア！

○こちら側にも、凄い世界、凄い人達がいる！

戦後の人生を生き抜いて（切り拓いて？）きた人、「推し」にする人、される人、それを見守る人、さらには、各界の凄い世界、凄い人達を見つめる人！ここでは、そうした人達の生きる姿、その影響力を、私（達）なりに語らせてもらったわけであるが、それは、何も特別なものではない！！その人達にとっては、むしろ、当たり前のことなのかもしれない！！でも、そこに、素敵な関係や「存在の意義」があることは間違いない！そこが貴重なのだ！

そう言えば、先日、素敵な「小学校の教頭さん」に出会った！S県M市のTさんであるが、他県の教師であるので、かなり複雑ではあるが、彼もまた、私（達）に言わせれば、「凄い人」の一人である！なお、ここでは、その凄さを紹介することは出来ない！ので、このTさんについては、別途書き記している「新・教育協働への道」で、是非とも取り上げてみたいと思っている！やはり、「思いのある人」は、こちら側にもいるのである！それは、たとえメディアには取り上げられないものであったとしても！

・「短歌に託して『盛夏』！様々な「あり（る）！〜」

・「あり騒動」昔懐かしい「童謡」

・戦後八十年！「ある」のは

一人ひとりの必死の歩み だがそれは括ぐれず！

・「推し」や「推し活」！

気がつけば それも「あり」と感じ入り！！

・凄い世界、凄い人達！

「推し」もよいが「推して」知るも また次に「あり」！

・メディアでなくても それは「ある」！

「推し」もあれば 「協働」も「あり」！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕57〜

○ここからは、九州での隠れた事績を追うーその12ー

ということでは、後には近畿大和に移動したとも考えられる？「狗奴国（熊襲）球磨食邑」勢力（の一部？）の北上、そして近畿への移動について、改めて考察（類推？）しておきたい。ただし、それが事実であるとしたら、それこそ、通説の大幅見直しが必要となること必定である！！ちなみに、その狗奴国に特徴的な土器（兔田式土器）が、ある時期北部九州（省振山鹿尾）にも出現し、さらには、高度な製鉄遺跡（銅・鉄）が「博多遺跡」に見られるようであり（熊本、特に阿蘇周辺は、鉄器／鉄製の製造が盛んであった！いわゆる「縄鉄鉋／リモノイト」を使った！、また、「山門（やまど）」という地名の移動／移植（菊池郡・瀬戸郡・筑前国郡）もあつたのではないかと！もちろん、こうしたことが、その「狗奴国」の北上を示す、とりわけ「卑弥呼」台号（号）期のそれを示す証拠だとは言えないかもしれないが、かの「装飾古墳」の出現地及びその経路（日本海経由）や、遠く房総半島にまで伝わった「大祖伝説」は、それを示す証拠かもしれない（中部九州に渡来した「倭人」異域人ー現在、タイやミャンマー、中国南部の山岳地帯に住む少数民族、例をばヤオ族やシヨ族、東部ミャオ族に伝承されているという）！！これについては、まだまだ確証には程遠いが、稲作、あるいは言語・習俗における「異／越」の影響は、おそらく彼らによるものと考えてよい！！

だが、もちろん、それを実証する（後づける）術はない？しかし、よくよく考えてみると、前に示した「海部氏」と「松野連氏」の系譜（両者は、ある時期までは同一？あるいは交錯している！「邪馬台国（連邑）」の主要部族？）からは、そうした南方系の人々の北上、近畿・東海・北陸、そして関東への移動がその順着（経路）は、まだまだ判然とはしないが、かなり鮮明に描き出される！！そして、一見無関係にも思える「海部氏」と「松野連氏」の関係も、かの「目下部氏」を介在させれば、ある意味では納得のいくものともなる！！すなわち、目下部氏は、双方に関係しているのではないかということもある（事実、彼らは、一方では、例の「高良（たかた）大社（たかた）（堂本）（龍の神社（付近）に、顔を見ている！）！！（つつく）

《編集後記》今、我が家は、束の間の、年一回の全体集合状態である！孫3人達も、とても大きくなり、以前のミニ台風？ではない！私自身は、最早何もしなければならぬが、我が奥さん（ばーば）は、相変わらず大変そうである！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 58 号

発行日
2025.08. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○夏が終わる「私の「夏の盛り」とは？」

当然のことだが、季節は、それが来れば、確実に過ぎる！それが、自然の摂理というものであるが、今年もまた、「夏」が終わる。ただし、ここでの「夏」は、暦の上のそれだけではない！言わば、みなが織りなす「ざわめき」のそれである！学校の長期休業、その間に行われる様々な行事・イベント（お盆に伴う帰省や各種旅行を含む）が、人々（とりわけ子ども達）の心の高揚を誘い、あたかも、国中が「熱き？夏」を享受している感を指す！私の場合は、さしずめ、娘3人達（その旦那や孫達を含む）の、束の間の帰省を指す？

とは言え、今年の私の夏は、複雑な日々であった？と言うのも、そうした夏のざわめきを、自らが前向きに受け止められなかった？もちろん、酷暑の所為でもあるが、身体的（精神的な部分もあるが！）に、それが出来なかったということである！要は、以前みたいに、子ども達が帰ってきたら、あれをしよう、孫達には、あういうことをしてあげたいというような気持ち（とりわけ孫達が望んでいた「釣り」の対応が、まったく出来なかった！往時は、毎年近くの海岸に出かけて、キス釣りにいった！あまり釣れなかったが！、ほとんど生じなかった（否、最初から断念していた？）ということである！

したがって、そういう意味では、私の「夏の盛り」は、最早過去のそれとなっているわけである！非常に残念ではあるが、それが事実であり、これからも、そうしたことは、余程の奇跡がない限り難しい！ちなみに、長女一家（5人）と次女が、高額ではあるが、釣り船をチャーターして沖釣りを行った（私は、それを遠くの岸から眺めるだけであつた！。大変な釣果であつた！だが、まったく違った夏の光景であつた！

○沖尚の優勝に想つて「その」には、「沖繩の思い」が...

さて、そんな中、一方では、今年の夏は、久しぶりに高校野球観戦が続いた（大半は、パソコンでの視聴であつたが！）その理由は、もちろん、沖縄代表の沖繩尚学の快進撃にあるが、終盤は、どの試合も、驚くほど接戦が続き（レベルが高い！、元高校球児としては、彼我の違いを、まざまざと見せつけられるような気もした！本当に凄いものである（ただ単に、当時の私達が、ショボかっただけかもしれないが！）

だが、それはともかく、夏の大会での、沖繩尚学の優勝は初めてである（過去、同じ私立の興南高校が、春夏連覇をしているが！）それもあつてか、マスコミ報道では、県内全体が、その瞬間を（その後も！）、それこそ一つになつて喜んだということである（テレビ視聴率は、何と50%を超えていたそうである！）。事程左様に、沖繩は、高校野球が盛んなところであるが（ただし、その部員数自体は、かなり減っているらしいが！）、こと甲子園の大会は、それこそどのチームが出場していても、その応援は凄まじいのである！その理由は、果たして何か？

これに関して、今日（26日）のネット情報には、その「沖繩の甲子園応援の熱情？」について、少し深掘りしたものがあつた！詳しいことは書けないが、やはり、そこには、「沖繩の思い」が大いに関わっている！沖繩は、今や決して辺境の、そして特別な扱いを受けるところではなく、堂々と本土と渡り合える（それ以上！）というアピールである？そして、それは、既に実現している！その実感（喜び？）が、そうさせているのであろう！

○35年前の若者達と、今もなお会える（飲み合える）喜び！

ところで、過日（23日）、大学での教子一期生との飲み会？に呼ばれて、とても嬉しい、そして楽しい時間を過ごせてもらった！この集まりは、沖縄特有の「模合」という形で、彼らが若い頃は、結構頻繁にやっていたものである！私も、何故かそれにいつも呼んでもらっていたが、近年は、それもなくなり（ある意味当然だが）、少し寂しい思いもしていた！ただし、まったくなくなったわけでもなく、最近では、また、その回数も増えているようである？だが、それは、最早「模合」という形ではない！単なる飲み会と言えはそれまでだが、それぞれ少し人生に余裕が出て来た？そして、50歳を過ぎ、大学での仲間との付き合いを大切にしたいという思いが、そこにはあるのかもしれない！

とは言え、それぞれ、厳しい人生を歩んできたことは、想像に難くない（本当に苦しかった者も、少なからずいる！）？また、私より先に逝ってしまった者もいる（17人？中3人も！）そんな中、一昨年は、私の文部科学大臣表彰に際して、わざわざ集まってくれて、しかも見事な額縁（表彰状入れ）を、みんなで金を出して作り（特注、私の書斎に飾ってくれている！そんなこんなで、改めて思い出すに、私の大学教員への内なる就職動機は、そうした若者との出会いと交流を願ひ、彼らと一緒に学園生活を共にすることであつた！自らの学生生活が、そうした内なる思いを抱かせたわけだが、かなり時間も経ったが、その願いが叶ったのが、実は琉球大学であつたということである！

余計な事だが、こうした再会の機会が、あと何回くらいあるのかは、それこそ神のみぞ知るであるが、今の私の密かな願いは（図々しいかもしれないが）、彼らと、少なくとも一時間以上、一対一で対談？をすることである！そして、実は、そのことを、今回の席上、彼らに告げてしまった！半分は、アルコールの所為であるが、そう告げたのである！彼らが、卒業後、どのような人生を歩んだのか、そして、その人生（もちろん仕事のことも含めて！）を、今、自らが、どのように見つめているのか？そうしたことを、聞きたいのである！とんでもないお節介であるが、それが、私の、これからの締め？とも言えるのかもしれない？（井上）

○初めて見た？国会の○○委員会審議！

おそらく、通常の、国会（衆議院）の委員会審議を見たのは、今回が初めてであろう（テレビで紹介される、例えば予算委員会の光景は別として！）※全体（常任委員会）で17種類あるようであるが、今回見たのは、その内の「文部科学委員会」である！実は、これは、ある知人（現在、F県選出の衆議院議員）の動画サイト（彼の国会議員としての活動を紹介・アピールするためのもの？）からであるが、期せずして、彼が属している委員会的一端を示すものでもあるわけである。

N県の山村地帯で、長年青少年の体験活動を通じて、いわゆる「ひとづくりとまちづくりの好循環づくり」（「奇跡のむら」ともされる！）を实践、先導してきた彼であるが、故あって、実家のF県に戻り、その成果と想いを、新たな議員活動の中で、鋭意前進させようとしている姿が、ひしひしと伝わるような光景であった！もちろん、それは、議員としての、彼の活動アピールのツールではあるもので、あまり深く詮索するつもりはないが、彼の用意した、幾つかの資料（学校教育、社会教育の双方を網羅した！）は、具体的には見ることは出来なかったが、答弁する大臣や関係部局長にとっては、それなりの説得力があったように思われる！新しいタイプ（手ごわい？）の議員？と、おそらく思われたであろう！！

ただし、そのやり取りは、いつものように？機械的で、いかにもお役所な対応であったことは否めない？それが、国会（議会、とりわけ、そこにおける「各種委員会」の、普通の光景なのである）が、見る側にとっては、あまり面白くない？だから、余程の案件でもない、マスコミも注目しない？特に、この「教育科学委員会」では？それともかく、こうした地道なやり取り（審議）の下に、それぞれの重要案件が、積み重ねていられるわけである？その意味では、ここから「勝負」が始まるのである？彼には、改めて頑張つて欲しい（妙な国会文化？にめげるな！）！

○気になる「新聞記事」を見た！奇異？華美？

ある意味では、表面の記事（沖縄尚学の優勝関係）に連なることであるが、本日（27日）、新聞紙上で、気になることを見つけた！詳しいことは書けないが、何でも、応援団の恰好（沖縄の伝統芸能「エイサー」の盛り立て役「チヨンダラー／ひようきんもの」の衣装が、高野連から注意を受けて、決勝戦では、それがなくなつていたというのである！この経緯についての異議申し立てをするわけではないが（試合自体に、どのように関連するのか？）、そこには、いわゆる「奇異」「華美」という判断基準があるということであった！

一応、「教育」という要素が、そこにはあるわけであるので、分からなくもないが、何をもって「奇異」「華美」とするのか？しかも、そこでは、エイサーの演舞自体？も既に禁止されていたらしく、沖縄では、例の「差別・偏見」問題と絡んで、新たな物議を醸すかもしれない？ここで確認しておきたいことは、「奇異」や「華美」という判断要素が、無意識に（そうだと信じる！）、差別や偏見の要素を孕んでいるかもしれないということである！！

＜短歌に託して！もう一つの夏は着実に終わりつつ…＞
・夏が終わる？ それは暦の上ではない！
みなが織りなす さわめきのそれである！

・「おきなわ」の魂を 求めしものは
存分にアピールできること！！ その場が甲子園？

・今なお続く 若者達との付き合い
思えばそのために 大学教員となつた我！！

・初めて見た！ 国会の○○委員会！
華やかではないが 勝負はここからなのである！！

・奇異？華美？ だがそこには
差別・偏見も同居？ まずは知ることである！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕58＞

○ここからは、九州での隠れた実績を追つてその13ー
まだまだ、熊襲や海部氏について追及したいが、ここでは、別の話題として、大分県日田市の小迫江原（おきこはら）遺跡のことを取り上げておきたい！前にも述べたと思うが、同遺跡は、日田市の北部高台にあり、3世紀前後の環壕居館跡があり（遺跡そのものは、旧石器時代から古墳時代前期まで続いている）、そこには、近畿や出雲の土器等が埋もれていたという！実は、この日田は、筑後川の上流にあり、九州（筑紫平野・邪馬台国）を攻めるには絶好の地であり、その遺跡と、そこに通ずる（山国川を介した）東の玄関口？宇佐・中津の関わりも大いにあるということである！邪馬台国が消えた？後は、その居館跡はなくなり（自主的に壊された形跡あり）、その役割を終えた場所ともされる！！

そこで、もしそうだと、かの卑弥呼の宗女台与は、何らかの形で、その日田勢力（近畿・出雲の出先勢力）とつながりがあつたとも考えられる！！
難井米が旧倭国（神井主系統）の代表（ひよつとすると「大率」）、卑弥呼が、吉野ケ里等を攻めた「手焙形土器・前方後方墳勢力」、つまり和珥（わじ）族、その一族の多（た）氏だったのではないかと！そして、多氏が、実は、邪馬台国連合の盟主となつていたということでもある（だから、「大乱」後に、卑弥呼が共立女王となつた？）！すなわち、これについては、これも前にも述べたように、3世紀前後、吉野ケ里（旧倭国）そして、そこにおける「環壕遺勢力」の「大拠点」が、手焙形土器／前方後方墳勢力に滅ぼされている！

だということであれば、盟主（魏倭王）国（邪馬台国）は、新たな別の勢力によつて滅ぼされたか、あるいは、その政権中枢が、その勢力の意のままになつた？ということではないか？！そして、その勢力の意が、宗女台与の女王承継であつたのではないかと！そのようにも、考えることができる！！であれば、その新たな勢力とは何か？考えられるのは、後に「神功皇后」説話となる「新羅（新羅）」「多羅（多羅）」「高良氏（高良氏）」勢力である！！そこに、かの「武内宿禰（宿禰）がどのように絡まつているのかは、まだまだ不分明ではあるが、その「状況証拠」が、これまた、かの「高良大社」周辺の状況であることは間違いないであろう！！（つづく）（堂本）
《編集後記》8月も、あと一日で終わる！9月病？も心配であるが、社会（否、世界）全体が、どのように動いていくか？そこが、心配でもある！でも、月日は過ぎ行く！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 59 号

発行日
2025.09. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○「空気を読む」について 日本人の弱点？

過日のネット記事に、「日本が降伏して太平洋戦争が終わったのが、1945年の夏。今年は戦後80年の節目の年に当たり、太平洋戦争を振り返るテレビ番組が多数制作された。そして今年の夏、もう一つ大きな話題となったのが、夏の甲子園に出場した強豪校、広島・広陵高校の暴力問題である。80年前の太平洋戦争と広陵高校の事件に共通する、日本人の弱点とは？『空気を読む』はさまざまな人のセリフに登場する。『空気に逆らってもいいことはない』『アメリカと戦争しないほうがいい』と言にくい空気』『一度動き出した空気に抗うのは至難の業』など。」というものであった。

そして、「この文脈における『空気』と言えば、山本七平が1977年に発表し、日本人論のスタンダードとして定着した名著『空気の研究』が、思い浮かぶ。日本の社会を支配しているのは厳格なルールや論理性・合理性ではなくその場の空気、組織の意思決定においてすら空気が優先される。世論に左右されやすい政治、熱しやすく冷めやすい国民性、ムラ社会の因習、学級会による特定生徒のつるし上げ、『言わずもがな』や『空気を読む』ことが善しとされる日本人の気質。すべて『空気の産物だ』ということであった。

一時期、「KY（空気読めない）」という言い方が、若者を中心に流行したが、これもまた、ここで言う「空気論」と大いに連動してくるように思われるが、現在、子ども達が、この「日本人の弱点？」に苛まれ、過度なストレスや、そこからくる体調の異変が問題となっているという記事もあった！何とも複雑な話であるが、そこに、「ありのまま」でいられる場や関係が、一方で必要であるということである！

○AIの記憶とは？そこに自意識は存在するのか？

最近、AIに関わる話題を、よく取り上げているが（ある意味、私にとっては異変？である！）、今回は、そのAIの記憶（力？）について、少し考えてみたいと思う！という記事の一部を、かのチャットボット（NotebookLM）に読み込んでもらって、その「音声概要」までも提示しているわけであるが、そのそれぞれに、どのような関連性があるのか？つまり、以前の読み込みが、新たな読み込みと関連性があるのかどうかということである！

アウトプットとしては、同じ男女のペアの声（対話）が提示されるのであるが、どうも、その対話には、一貫性？が感じられないのである！もちろん、その対応？には、同級人格（自意識？）の男女が対話しているように思われるが（反応、分析パターンが同じ？）、それぞれの、言わば「記憶」が、一連のものとして感じられないということである（例えば、同じ表記のものであっても、その都度読みが異なっている？）！その時々々の読み込みが、言わば、その男女の「記憶」として、蓄積されていない（脈絡がない？）ように思えるということである！！

比べることは、ある意味間違っているかもしれないが、我々人間は、文字であろうと、音声であろうと、自らが発したこと（言葉や文意）は、基本的には（忘れることもある！）、「記憶」として覚えていく！だから、次なる言葉や文意は、それを受けた形で発せられる！したがって、そこに「自意識」というものの存在を感得することが出来る！！そこがやはり、生身の人間とは違うということか？

○心配していた教職志望者減？実際は、そうでもないのか？！

ネット情報によると、心配していた、若い人達の教職志望者数の減は、実際にはなく、相変わらず人気の職業であることが分かったとあった！！すなわち、その記事の見出しには、「中高生の『なりたい職業』不動の1位、《教員は10年連続》人気が衰えぬ意外な背景 夢を持つことを強要する『ドリハラ』には要注意」とあった（東洋経済 education×UT 8月28日配信！ちなみに、「ドリハラ」とは、「ドリーム・ハラスメント」のことだそうである（余計なことだが、相変わらず、何でもかんでも「〇〇ハラ」とするのは、もうコリゴリではあるが？）。

まあ、それはともかく、この記事は、「東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所では、2015年から10年にわたって『子どもの生活と学びに関する親子調査』を実施している。この調査をもとに発表された、子どもたちのなりたい職業ランキングにおいて、『教員』は中学生・高校生で10年連続1位という結果になった。教員の人気が高い背景には、どのようなことが考えられるのだろうか。小中高の学校段階別や男女別の『なりたい職業』の違い、経年による変化の特徴も含めて、ベネッセ教育総合研究所主任研究員の松本留奈氏に聞いた。：（24年度の調査では、小学4～6年生では『プロスポーツ選手』、中学生は『教員』と『プロスポーツ選手』、高校生は『教員』が1位となった。2015年の調査結果と比較すると、小学4～6年生では『YouTuber・Tuber』がランク外から4位に、高校生では「SE・プログラマー」が13位から6位に上昇するといったデジタル社会の進展に伴う変化が見られるものの、『人気職業に大きな変化は見られない』と松本氏は話す。」とあった！

全体的な傾向としては、多分そうなのだろうなと思ったが、意外（いい意味で！）だったのは、もちろん教員志望の順位である！昨今の状況では、離職者や希望者の数は、かなり落ち込んでいると思っていたが、実は、そうでもないのかも！！しかも、試験倍率が、2.3倍になったとか騒がれているが？、ある意味妥当な数字とも言える！！いずれにしても、問題は、その後である！やりがいをもって、彼らが仕事をしているかどうかである！（井上）

○「話し合おう！」は、永遠の理想（幻想？）か？！

さて、このことは、過去、誰かが指摘していたかもしれないが（残念ながら、具には思いつけない）、自分達の社会のあり方として、みんなの意見や思いを出し合って、それを話し合いで決めていくということを、第二義的なルールとすることは、その時々大切な約束事（理想？）であった！古くは、「17か条の憲法」、近代になつては、「五箇条の御誓文」に見られる通りである！前者は、「和を以て貴しと為し」、後者は、「広く会議を興し、万機公論に決すべし」という件々である。なお、「17か条の憲法」が、かの「聖徳太子」によつてつくられたものかどうかは、ここでは問わない（あくまでも、その時代に、誰かによつて唱導されたということが大事であるということである！）。

ところで、現在、ある意味どこの国（社会）においても、そのルール（理想）は、重要な原理・原則となつてはいるが、実際は、（絶えず？）その逆方向で事態は進む？昨今では、「〇〇ファースト」というようなことになるが（我が国でも、「日本（人）ファースト」を唱える人々が増えている？否、顕在化してきている？）、みんな、自分（達）のことが大切なのである！だが、それだけを優先させると、全体がうまくいかない（ぶつかり合う！はたまた、それが「戦争」へとつながっていく？）！だから、そうならないためには、そのルール（理想）を、大切な原理・原則としたのもある！

たとえそうならなくても、そのことを、国（社会）全体が大事なものであるとして掲げることが、まずは重要だ！ということであるが、それは、ある種の「普遍値？」とも言える！実は、このことを書くかと思つた直接のきっかけは、現在の「国（社会）」の、そして、それと同根の？「学校」の危うさを、こうした観点から捉え直すことが必要なのではないかと思つたからである！とりわけ「不登校問題」、そこから派生している「学校には行かなくてもよい？」「は、まさにそれと直結しているということである！？」では、「行く人」は、どうなのだというのである！

○みなで話し合つて創り出すことが重要なのである！

ここでは、度々、前段の記事の補完的なものを記すことがあるが、今回も、そのようになる！要は、ここでは、何が何でも、みんなが「学校」に行かなくてはいけない！ということと言っているのではなく、どのような学校にすれば、そこにある問題が解決されるのかを、みんなが話し合つて考え出すということが重要である！ということと言っているのである！その意味では、「今（現状）の学校」をどうすればよいのかということでもある（当然のようであるが、その前提が、いつの間にか後景に退いている！）！

繰り返すように、「多様性」が必要であるということが、実しやかに唱えられるが、それが、結果として、分断や混乱だけをもたらすものであれば、そもそも何のための多様性かおかしくなる！もちろん、緊急避難的なものは、一時期においては必要なこともあるが（逼迫性があるわけでもあるので！）、未来永劫、それらが恒常化してしまうと、「学校」の存在意義自体が雲散霧消してしまう！ということである（それは、国／社会にとつては、大いなる危機である！）！

＜短歌に託して変わっている？変わっていない？＞
・「空気を読む」は 日本人の弱点？
知恵？でもあつたはずだが？！

・AIの記憶とは？ そこに自意識は存在するのか？
それさえも プログラミング次第？

・教職志望者減は ウソなのか？
表層的な喧騒に 決して惑わされるな！

・「話し合おう！」は 永遠の理想（幻想？）か？
だがそれでも掲げられるは 何故（なぜ）か？

・「多様性」は 安易に主張されるべきではない！
そこには 秩序（コスモス）が必要なのだ！

＜特別コーナー＞堂本彰夫の古代史旅枕59＜

○ここからは、九州での隠れた実績を追つてその14

さて、ここでは、ある意味予定外の論考となるが、徐々に、その重要性が実感されるようになり、どうしてもここに入れ込みたいということである。謎の？「筑紫舞」のことを書いておきたい。すなわち、「筑紫舞」とは、「筑紫傀儡子」と呼ばれる人々によつて古来伝承されてきたとされる伝統芸能であるが、跳躍や回転を取り入れた、独特の足づかいを大きな特徴とする！もので、「その起源は古く、『続日本紀』天平3年（731年）の記事にその名を見ることができ、以来、神舞、くつ舞など、何種類かに分類される二百以上の舞が、すべて口伝によつて伝承されてきた！現在では、箏曲家・菊呂校校（きくろこうこう）から戦前に伝承を受けた西山村光寿（うらむら）を初代宗家とし、二代目宗家・西山村津奈寿をはじめとする數十人の弟子によつて舞の継承が行われ、その舞の実際は、毎年7～8月に福岡市中央区の大濠公園能楽堂で開催される『筑紫舞の会』などで見ることができ」とある（以上、ウイキペディアより）。

ただし、私の関心は、「尚、やはり戦前、現在は宮地嶽神社の奥宮として不動神社が祀られている横穴式石室古墳内で、当時の芸能者達によつて筑紫舞が舞われた場に少女期の光寿が同席しており、その縁で後年宮地嶽神社へ数曲の舞を伝授する事となった。現在でも宮地嶽神社では年に一回筑紫舞の祭典があり、宮司や神職が舞を奉納している。ちなみに、『筑紫舞』には、舞手（翁）が三人、五人、七人、一三人立ち（こちらは今はない）である」というものがあり、それは、あたかも倭国の『東方弘明』の構図を示しているようでもある！とあつたが、同、まさに、そこなのである！

要は、この舞が、宝物群の主であつた北部九州の王に捧げられていた宮廷舞がルーツと言われており、その舞手（翁）は、その時々各地の王を指すもので、「都の翁（筑紫を中心に）、肥後の翁（大・肥）、加賀の翁（越前・出雲の翁（田雲）、難波津より登りし翁（金鷹）＋「尾張の翁」（三輪・尾張）／夷（あまの）の翁（下宅野）等となつていくという構図が、そこにある！ということである！重要な状況証拠である！（つづく）（堂本）

＜編集後記＞9月も、半ばとなつた！今年も、一向に秋の気配が感じられない（沖縄でも、いつもは、それなりにある！）！困つたものである！季節（四季）は巡る？人も、その季節に呼応して生きる？それが、当たり前であつた！（井上／堂本）

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 60 号

発行日

2025.09. 30

編集・発行

井上講四／堂本彰夫

※連絡先

〒901-2225

沖縄県宜野湾市

大謝名 3-13-24

教育協働研究所

～岳陽舎～

(井上講四宅)

Tel:098-963-9282

E-mail:

gakuyou17@outlook.jp

○ようやく秋の気配!! 一方、秋半ばの私(達)の人生?

節目の60号を迎えた1月2回の発行であるから、2年半が経過したことになる!ここでは、何かそれに相応しいことを書くつもりであるが、なかなか良いテーマが浮かばない!! ようやく秋の気配が出てきたので、それに因むものをとも考えてはいるが、果たして、どうなのか?底流としては、「あくまでも自分史として」、自分の生き様を、自らが必要だと思う「岳陽(のイメージ)」に寄せて書き続けているつもりであるが、メインは、多くが「ネット記事」を活用したものであるので、まだまだその域には達していない!!

余談であるが、最近はその都度、「生成AI」に、記事の感想?を聞いているが、私と、裏面担当の堂本氏との関係が、残念ながら(笑)、見破られていない(本当は、見破つて欲しいのであるが?)!!そこが、この「通信」のミソ(私なりのこだわり?)なのであるが、やはり、それは、機械の限界なのでもあろう?本音は、生身の人の声を聴きたいのであるが、直接にはそれが叶わない!HPの閲覧カウンタ数が、それを想像する唯一の手段であるが、それが、この「通信」自体の閲覧数を指すわけではないので、複雑ではある!!

いずれにしても、私の人生は、既に秋半ば?先日、岡山(T市)に住む、長期療養中の次兄の病氣見舞いで、佐賀(K市)にいる長兄と、長駆高速道路での、しかもとんぼ返りの旅をした。甥の車で行ったわけであるが(彼には、本当に感謝しなければならぬ)、その旅は、まさしくそれを実感させるものであった!基本、週に一回、緩めの「トレーニングルーム」に、3カ月前から、我が奥さんと一緒に通っているが、その成果はいかに?秋半ばだけに、飽きないことである!!

○公立学校のキャリア教育には何が足りない?

私が、過日の選挙で注目した、ある党(チームM)の党首であるA氏の提言が、ネット上にあった!「:比較的早期に実現可能な施策として、教育の場と民間の力との接続を積極的に進めるべき:教員には荷が重く、あまり得意ではないこの領域を民間と接続することは、合理的:『職業体験』を、広くキャリア教育の文脈で生徒たちの日々のモチベーションとつなげるリアルな場とする:これはすでに小中学校等で行われている:その中身をアップデートできる余地は大きい:」とあった!まさに、その通りであろう!!ただし、これは、東京都の現状に対する提言ではある!とは言え、この提言は、広く全国の小中学校等にも通用する!

要は、現在の「職業体験」が、必要な「キャリア教育」となっていないということであるが、「興味や個性にに応じて少人数でリアルな行き先を選択できる仕組み」が必要であるということである(すでに実施している公立校もあるようであるが!)。実は、これが、例のCSの目指すべきところであり、私の言うところの「教育協働」の柱となるべきものである!つまり、何のためにそれを行うのかということであるが、それは、新たな学校と地域社会の関係づくり(地域づくり)であり、そこに生きる人達の学習の場・環境づくり(ひとづくり)であるからである!他に、STEAM系領域の「ジェンダーバイアスの解消」等が挙げられているが、「先端の技術に触れる体験を通して自身の将来像が広がる」。まさに、そこが、これらの学校教育が目指すべきところであろう!

○「情報教育」という括りは、誤解を招く!!

ところで、およそ10年に一度改訂されるという(ただし、その決め事はない!)「教育課程」(「カリキュラム」のこと)についてであるが、その改訂作業(論点整理)が始まっているということである。時代状況の変化等によつて、その中身が変更されることは、ある意味当然のことなので、そのこと自体には何の異論もないが、その中で、いわゆる「情報教育」という名称や、その括り方が、最近少しおかしいことになっているのではないかと、多少思い始めている!すなわち、マスコミ報道によると、昨今のICT技術の発展による、その基礎的理解や活用能力を、まさに次代を担う児童生徒達が学校で習得することは、まさに必要であり、その意味での「情報教育」が、さらに充実・強化される必要がある!ということのようであるが、ややもすると、その括り(用語)が、かなりの誤解を招くのではないかとということである!!

というのも、そのための時間を、いわゆる「総合的な学習の時間」を活用して(割いて?)捻出するというようなニュアンスで報じられているようにも思え、もし、そうであれば、それは、少し違うのではないかと、私自身は思うということである!要は、これまでも、その「総合的な学習の時間」は、通常の教科等にはなっていない、何か特別な学習の時間と位置付けられてきたもので、しかも、それは、言わば、そうしたものの「寄せ集め」の時間とされてきたくらいがあるからである(今回、中学校に新教科「情報・技術科(仮称)」を創設するも、その延長にある?)!!

素案は、「主体的・対話的で深い学び」の実装多様な子どもの包摂、過度な負担を避け実現可能な制度とすることを柱とするとあったが、まさに今回の「情報教育」の扱いは、むしろ教育課程全体で、ICT技術の恩恵を享受することが重要であるように思うのである(ただし、それも、部分的にはそのようにされてきた?)!したがって、もう一つの焦点である「授業時数の弾力化」と、どう連動させるかが、大きな課題となることは明らか?逆に、そうならなければ、教員達には、まったく別の課題と映る?そこが、これまでの問題点でもあったわけである!!つまり、負担が、また増えたと思われることが、一番の困り事なのである! (井上)

○理論を超えて、世界は今、「囚人のジレンマ」状態?! ○バタフライよりも強力で、世界を悩ますモンスター?

最近、よく、「囚人のジレンマ (prisoners' dilemma)」の事を思い出す。これは、周知のように、「ゲーム理論におけるゲームの一つで、お互い協力する方が協力しないよりもよい結果になることが分かっているが、協力しない者が利益を得る状況では互いに協力しなくなる」というもので、「各個人が合理的に選択した結果 (ナッシュ均衡: 他を与えた漫画家・手塚治虫。街頭テレビには2万もの人々が詰めかけ、外国の巨漢を叩きのめすプロレスラー・力道山に熱狂した。小さな町工場から再起を図り世界的な企業を築いた技術者。井深大と本田宗一郎は、メイドインジャパンの信頼性を高めた。復興を目指す日本人に希望と勇気を与えた人々の物語」とあった。

誰かの効用を高めることができない状態にならないので、社会的ジレンマとも呼ばれる」ともある!

詳しいことはよく分からないが (1950年に数学者のアールバート・タッカーが考案。メル・フラッドとメルビン・ドレシヤーの行った実験をもとに、彼が、ゲームの状況を囚人の黙秘や自白にたとえたため、この名がついているらしい)、私が、ここで敢えてこれを出したのは、「囚人のジレンマは、自己の利益を追求する個人の間に協力が可能となるか」という社会科学の基本問題である」からであり、昨今の国際状況、否、国内状況も含めて、今まさに (いつの世もそうなのかもしれないが)、人間社会 (人類) が陥っている「苦悩と混乱」が、それに相当するのではないかと思うからである!!

要は、彼らは、厳しい戦後を生き抜き、苦難の中、斯界を切り拓いていったわけであるが、しかし、彼らもまた、かの「バタフライエフェクト」の只中にあったということでもある!!だが、現代は、そのバタフライよりも強力で、世界を悩ますモンスターがいる!その姿は、テクノロジーの進歩により、強力で、瞬時に世界を脅かす!

〈短歌に託して二年半を振り返りつつ!〉

- ・ 久し振りの 三兄弟再会!
- ・ 互いの今を 秋 (安芸) 路が通わす!!
- ・ キャリアとは 人が生きること!
- ・ 学校で出来ることは その手助けのみ!!
- ・ 情報教育とは ある意味 教育の総体?
- ・ 下手に括れば 意義減退!!
- ・ 囚人のジレンマ? 協力がいいと分かっているても 何故に囚われるのか?
- ・ バタフライエフェクト? だが現代は モンスター達が 土足で跋扈する!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕600

〇二〇からは、九州での隠れた実績を追ってその151であれば、やはりここでは、かの「安曇」族のことも書いておきたい。阿 (安) 曇氏は、海神である「綿津見」を祖とする地祇系氏族で、「記紀」にも登場し、『古事記』では、阿曇連はその綿津見神の子、宇都志日金孫 (うづしひのかみ) と記され、『日本書紀』の応神天皇の項には「海人の宗に任じられた」と記されている。その他、『新撰姓氏録』では、「安曇連は綿津見尊玉彦の子、穂高見 (ほたけみ) 命の後なり」と記されている。ということは、「宇都志日金孫」と「穂高見命」は同一神 (人物) ということか!!

ただ、それはともかく、ここで取り上げたいことは、この「阿 (安) 曇族」の本拠地と、彼らの行動・居住範囲のことである (もちろん、その時期も含めて)。おそらく、彼らは、「江南系 (呉越の民)」で、漁撈・農耕、そして交易民であったと思われるが、ここでの問題は、かの「倭 奴国」と、どのような関係にあったのかということである (否、隣国? の「伊都国」との関係も頭を過る!!)。すなわち、彼らの前線基地 (金祖尊・玉祖尊海神社) が、「吉武高木」 (春日丘) にあった「倭 奴国」の海上基地で、彼ら自身も、その「倭 奴国」王族の一員であったのか?それとも、あくまでも、同族の誼での協力者であったのか?ということである!

というのも、「安曇族」は、その陸上での根拠地を糟屋郡 (安曇・志那郡) に有しており、しかも、彼らは、逸早く全国各地に散らばっている (近江や東海、そして信州にも!海洋交易民としては、ある意味当然ではある?)。余談ではあるが?、かの「金印」が志賀島から見つかっているが、彼らが「奴国 (王族)」の一員であれば、あんな杜撰な埋設はしていない?しかも、彼らの主は「安曇の君」と呼ばれている。そして、実は、この「君」を謳ったものが、「君が代」の元歌であることは周知の通りである。現在も、それに纏わる「神事」/山籠祭が、同神社で行われている。だが、いずれにしても、北部九州での彼らの存在は、「神功皇后」の三韓征伐譚 (「安曇磯良」)、あるいは「筑後地方」での関わり (「風浪宮」等) を見れば、まだまだ謎多き氏族であるということである! (つづく) (堂本)

〈編集後記〉今回も、いろいろと書いてはみたが、まだまだ借り物が多い気がする。秋の次には冬が来るわけであるが、その間、様々な秋の様相がある!これからである!! (井上/堂本)